

# 五ヶ瀬川水系河川整備基本方針

## 五ヶ瀬川水系の流域及び河川の概要

令和3年10月

国土交通省 水管理・国土保全局

# 目 次

	頁
<b>第 1 章 流域の自然条件</b> .....	<b>1</b>
1-1 河川・流域の概要 .....	1
1-2 地形 .....	3
1-3 地質 .....	3
1-4 気候・気象 .....	5
<b>第 2 章 流域及び河川の自然環境</b> .....	<b>6</b>
2-1 流域の自然環境 .....	6
2-2 河川及びその周辺の自然環境 .....	8
2-3 特徴的な河川景観や文化財等 .....	21
2-4 自然公園等の指定状況 .....	26
<b>第 3 章 流域の社会状況</b> .....	<b>30</b>
3-1 人口 .....	30
3-2 土地利用 .....	31
3-3 産業・経済 .....	32
3-4 交通 .....	33
<b>第 4 章 水害と治水事業の沿革</b> .....	<b>35</b>
4-1 既往洪水の概要 .....	35
4-2 治水事業の沿革 .....	41
<b>第 5 章 水利用の現状</b> .....	<b>43</b>
5-1 水利用の変遷と現状 .....	43
5-2 渇水被害の概要 .....	45

# 目 次

	頁
第6章 河川の流況と水質 .....	46
6-1 河川流況 .....	46
6-2 河川水質 .....	47
第7章 河川空間の利用状況 .....	50
7-1 河川の利用状況 .....	50
7-2 河川敷の利用状況 .....	52
第8章 河道特性 .....	54
第9章 河川管理の現状 .....	55
9-1 河川管理区間 .....	55
9-2 河川管理施設 .....	56
9-3 河道内植生 .....	57
9-4 水防体制 .....	58
9-5 危機管理の取り組み .....	61
第10章 地域との連携 .....	63

# 第1章 流域の自然条件

## 1-1 河川・流域の概要

五ヶ瀬川は、その源を宮崎県と熊本県の県境にそびえる向坂山（標高1,684m）に発し、多くの溪流を合わせつつ高千穂溪谷を流下し、更に岩戸川、日ノ影川、綱ノ瀬川等の支川を合わせ延岡平野に入る。その後、三輪において大瀬川を分派後、延岡市街地を貫流し河口付近にて祝子川、北川を合わせ、日向灘に注ぐ、幹川流路延長106km、流域面積1,820km<sup>2</sup>の一級河川である。

五ヶ瀬川流域は、宮崎県、熊本県、大分県の3県にまたがり、流域内人口は約12万人と主要都市である延岡市を含めて減少傾向となっている。流域の土地利用は、山林等が約91%、水田や果樹園等の農地が約7%、宅地等市街地が約2%となっており、農地については、中上流部では急峻な傾斜地を活用した主に棚田として、中流部では河川沿いに点在する箇所では田畑として利用がみられ、宅地等市街部は、工業都市として発展してきた下流延岡市に多く集中し、五ヶ瀬川・大瀬川・祝子川の周辺及び日向灘沿岸部では市街化区域などの指定がなされている。また、延岡市では五ヶ瀬川及び支川北川においては、平成9年（1997年）や平成17年（2005年）等の洪水で被害が発生した一部区域に対し、建築物の建築を制限する災害危険区域が指定されている。

なお、五ヶ瀬川流域は宮崎県北部のほぼ全域を占めており、この地域における社会、経済、文化の基盤をなすとともに、水量も豊富で自然環境や景観も特に優れていることから、本水系の治水、利水、環境についての意義はきわめて大きい。

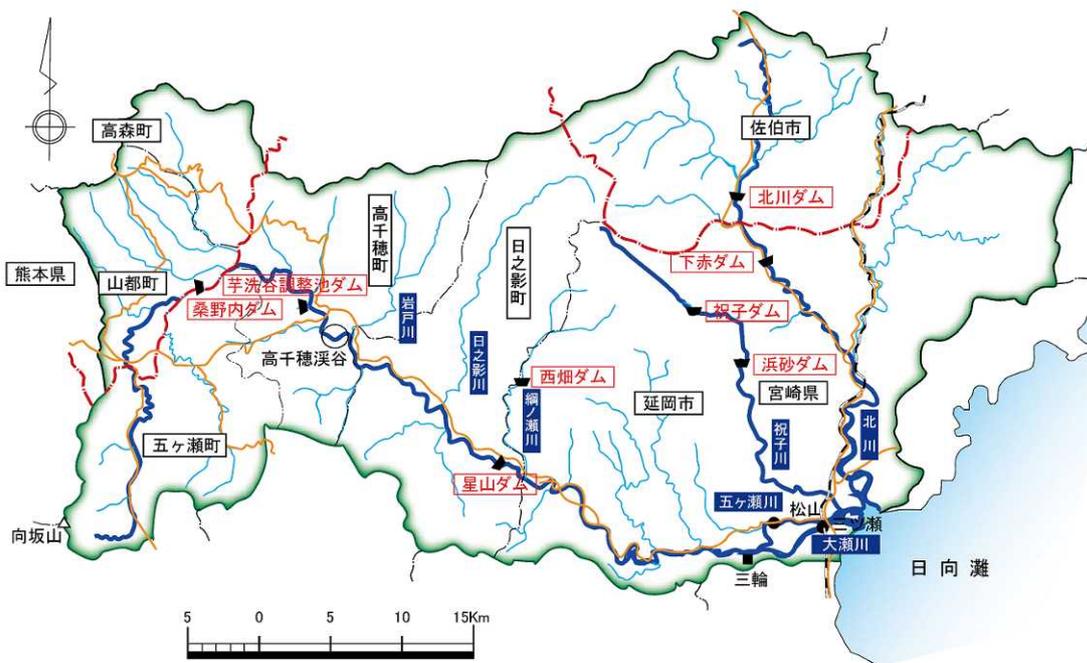


図 1-1 五ヶ瀬川水系流域図



◀ **五ヶ瀬川  
上流部**

出典：五ヶ瀬川水系河川整備計画

**五ヶ瀬川  
中流部** ▶

出典：五ヶ瀬川水系  
河川整備計画



◀ **五ヶ瀬川  
下流部**

出典：五ヶ瀬川水系河川整備計画

## 1-2 地形

五ヶ瀬川流域は、北部を大分県と宮崎県の県境に位置する標高 1,400～1,700m の山嶺が連なる祖母<sup>そぼ</sup>傾<sup>かたむき</sup>山系<sup>さんけい</sup>、西部を熊本県と宮崎県の県境に位置する標高 1,000～1,700m の九州中央山地<sup>きゅうしゅうちゅうおうさんち</sup>、そして南部を標高 900～1,300m の諸塚<sup>もろつか</sup>山系などの急峻な山地に囲まれている。これらの山地は、いずれも極めて急峻な大～中起伏山地よりなるが、上流域の熊本県山<sup>やまと</sup>都町及びその下流域の本川沿いには火山性台地が帯状に延びている。また、北川流域を中心とした流域東部では、地形も比較的緩やかになり、中～小起伏山地が主体となる。

五ヶ瀬川は西部に位置する九州中央山地<sup>むこうざかやま</sup>の向坂山源を発し、一時北流して熊本県に入り、その後南東方向に流れを変え、高千穂<sup>たかほきょう</sup>峡などの溪谷を形づくりながら、河口近くで祝子川<sup>ほうり</sup>や北川<sup>きたがわ</sup>と合流し、沖積平野である延岡平野を伝って、日向灘<sup>ひゅうがなだ</sup>に注いでいる。

## 1-3 地質

図 1-2 に五ヶ瀬川流域の地質図を示す。本流域には砂岩・粘板岩・チャート・頁岩等よりなる堆積岩類が主に分布する。この堆積岩類は、古生代に堆積した地層(古生層)、中生代白亜紀に堆積した四万十層<sup>しまんとそう</sup>累群(諸塚<sup>もろつか</sup>層群)、そして新生代古第三紀に堆積した日向・日南層群に分けられ、これらが上流から下流域にかけ、北東から南西方向の帯状をなして分布する。

古生層は、砂岩・粘板岩・チャート・石灰岩等よりなる堅硬・緻密な岩盤であるが、主として本川上流域の五ヶ瀬町から高千穂町、日之影町北部にかけて分布する。また、諸塚層群は、日之影町南部から延岡市西北部、及び大分県佐伯市南部にかけての本川中～上流域や祝子川、北川流域に分布し、主として硬質な砂岩<sup>けつがん</sup>・頁岩より構成される。日向・日南層群は、主として比較的硬質な砂岩・泥岩より構成され、延岡市南部を中心に広く分布している。



### 1-4 気候・気象

五ヶ瀬川流域は、中・上流部は気温が低く雨量の多い山地型、下流部から海岸部に至っては暖かで雨量の多い南海型気候区に属している。

下流域の延岡市では、年平均気温が 16～17℃、上流域は、年平均気温が 15℃前後であり、最上流部の宮崎県五ヶ瀬町鞍岡付近では年平均気温は 12～13℃程度と低い。

流域内の年平均降水量は約 2,500 mm と、全国平均と比較すると約 800 mm も多い多雨地域となっている。

また、8～9 月にかけて襲来する台風によって多量の雨がもたらされることにより、しばしば下流低地部では洪水による浸水被害を受けている。



図 1-3 気候区分図

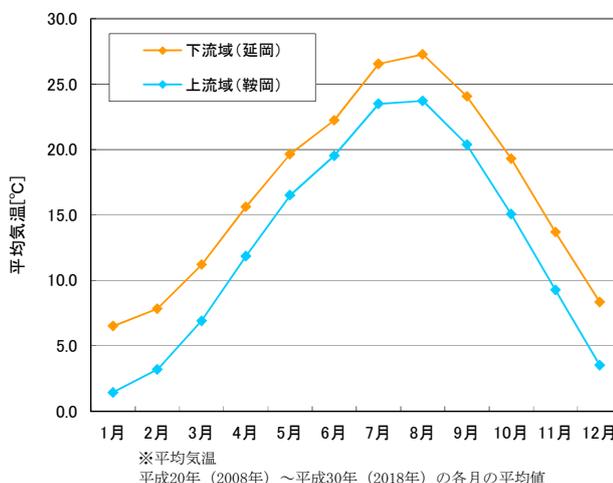


図 1-4 代表地点の月別平均気温

出典：気象庁ホームページ

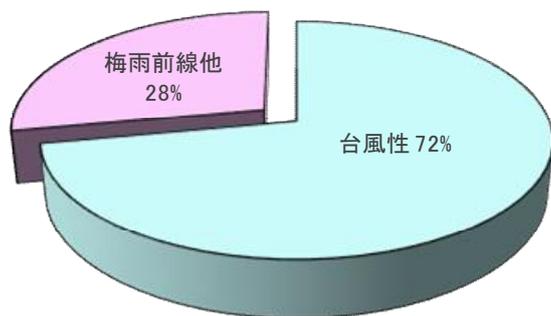


図 1-5 洪水要因比較図

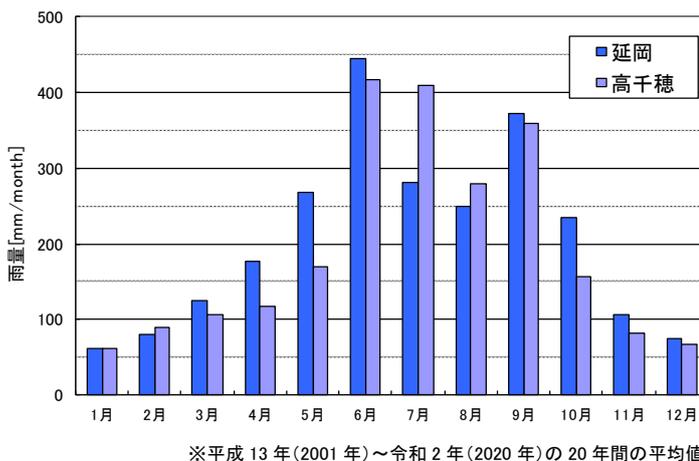


図 1-6 流域平均月別降水量

出典：気象庁ホームページ

## 第2章 流域及び河川の自然環境

### 2-1 流域の自然環境

五ヶ瀬川流域は、北部を大分県と宮崎県の境に位置する祖母・傾山系、西部を熊本県と宮崎県の境に位置する九州中央山地などの中～大起伏山地に囲まれており、これらの山地から急峻な谷をなして流下する多くの支川を合わせながら南東方向に流れ、延岡市において平野部を形成して日向灘に注いでいる。

また、支川の源流部である流域北西部の高森町一帯は阿蘇火山群の一部となっており、世界一のカルデラを形成する外輪山が連なっている。

流域内には、3つの国定公園と2つの県立自然公園が指定されている。流域の北部には祖母山(1,756m)・傾山(1,602m)・大崩山(1,643m)などの高い山々がなす祖母傾国定公園及び祖母傾県立自然公園に指定されている。流域の西部には熊本県との県境に九州中央山地国定公園、山都町周辺は矢部周辺県立自然公園に指定され、さらに、海岸部は日豊海岸国定公園に指定された砂浜が広がっており、豊かな自然環境を呈した地域となっている。

植物については、阿蘇泥溶岩台地を侵食して形成されたV字形の峡谷を流下する上流部は、コジイ群落やシイ・カシ萌芽林などが分布し、豊かな自然環境を有している。中流部はスギ、ヒノキなどの人工林が中心となり、下流部の高水敷にはヨシ、オギが広く分布している。

このような環境の下、魚類はアユを中心にコイ、ギンブナ、ボウズハゼ、ウグイ、オイカワ、ヨシノボリ類などが生息し、上流の溪流には天然のサクラマス(ヤマメ)が見られる。また重要種として、ミナミメダカ、カマキリ、アカメ、カワアナゴ、トビハゼ、チクゼンハゼなどが下流部に生息している。鳥類は、五ヶ瀬川河口域にミサゴ、大瀬川鷺島橋下流のヨシ原にセッカ、オオヨシキリなどが生息している。河口域から中流域にかけては、チュウサギ、イカルチドリ、シロチドリなどの重要種が生息している。大瀬川や五ヶ瀬川下流域では、ニホンアマガエル、ヌマガエルなどの両生類やニホンカナヘビ、シマヘビなどの爬虫類が生息しており、海岸域の砂浜は宮崎県の天然記念物に指定されているアカウミガメの産卵地となっている。哺乳類は、上流部の祖母・傾山系において、国の天然記念物であるカモシカをはじめ、ニホンジカ、イノシシなどの大型哺乳類の生息が確認されている。下流部では、カヤネズミ、タヌキ、テンなどが生息している。昆虫類は、コムラサキなどの重要種が生息するとともに、清流に繁殖するゲンジボタルが見られ、延岡市北川町内にはホタル見物の名所が点在している。

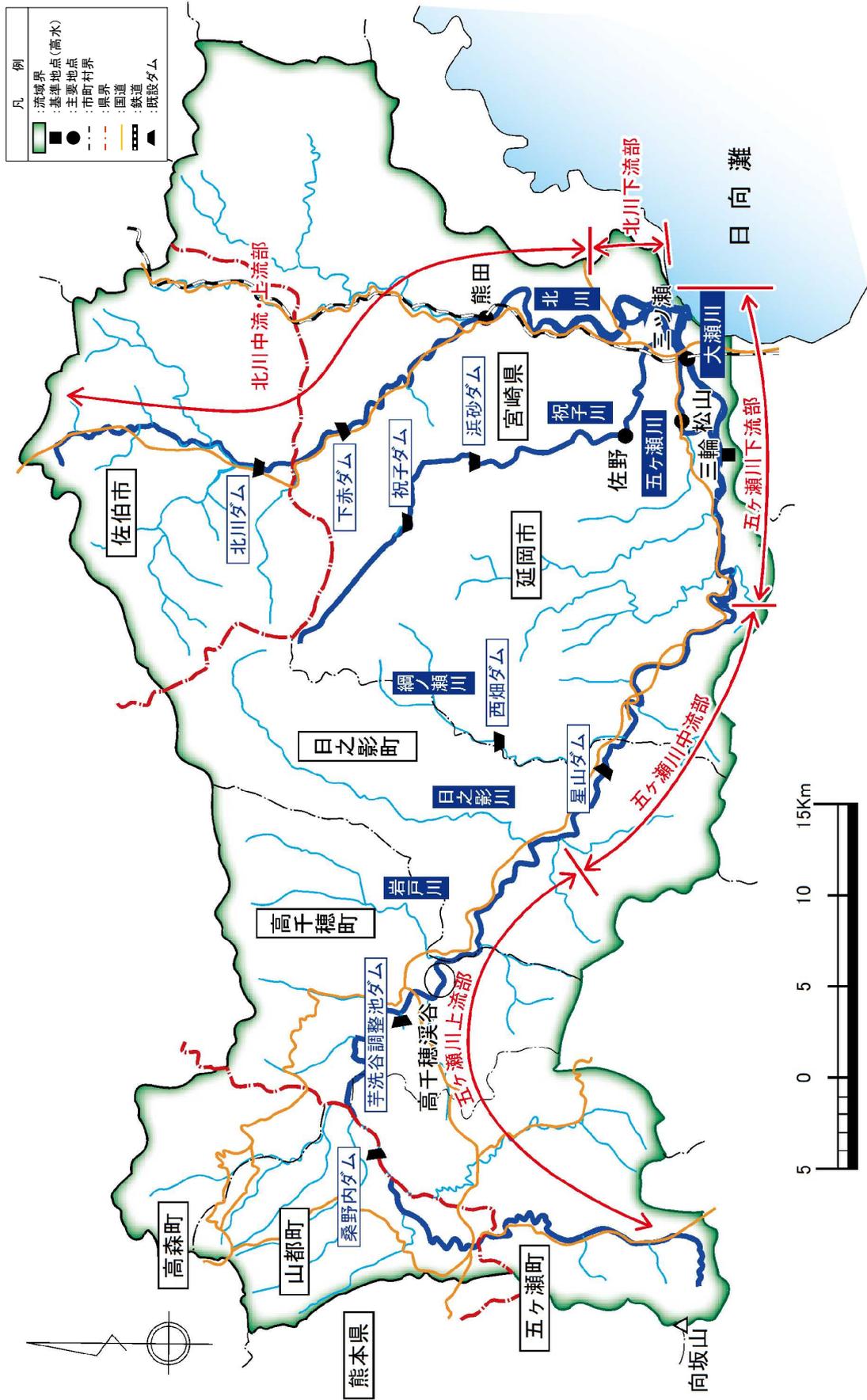


图 2-1 五ヶ瀬川流域区分图

## 2-2 河川及びその周辺の自然環境

### 1) 五ヶ瀬川上流部

源流付近はスギ、ヒノキなどの山林を中心とする山峡部で、その一部の区間では巨石が点在し、自然河川の様相を呈した風景を見ることができる。

源流部の山峡を抜け、阿蘇溶岩台地を侵食して形成されたV字形の峡谷を流下する上流部は、高千穂峡に代表される五ヶ瀬川溪谷として、国の名勝及び天然記念物に指定されており、秋の紅葉など四季に富んだ自然環境が観光資源となっている。

植物は、本川の左岸側上流域を構成する祖母山系には自然林が広がるほか、潤谷のキレンゲショウマ群落、白岩山石灰岩峰植物群落とクリンユキフデ群落を含む原生林など、上流域や山間部を中心に貴重な群落が多数存在している。また、五ヶ瀬川の源流域にあたる山都町内の社叢<sup>しゃそう</sup>は、町の天然記念物に指定されているとともに、高千穂町ではフクジュソウ、クマガイソウの自生地が分布する。魚類は、最上流部にはサクラマス（ヤマメ）が見られ、三ヶ所川<sup>さんかしょがわ</sup>と合流する地点から魚種も増え、オイカワ、カワムツ、ヨシノボリ類などが生息している。鳥類は、クマタカなど重要な猛禽類の生息が確認されている。両生類は、五ヶ瀬川の上流域である九州中央山地にベッコウサンショウウオ、オオイタサンショウウオが生息している。哺乳類は、祖母・傾山系において、カモシカ、ニホンジカなどの生息が確認されている。また、そのほかの山間地でもイノシシ、タヌキ、ニホンアナグマなど、比較的大型の哺乳類が生息している。昆虫類は、上流域から山間部にかけては、特に昆虫類の宝庫となっており、北部から西部の樹林帯には、オオムラサキ、ハルゼミなどが生息している。



サクラマス（ヤマメ）

（国：準絶滅危惧）

出典：河川水辺の国勢調査



ベッコウサンショウウオ

（国：絶滅危惧Ⅱ類、県：絶滅危惧ⅠB類）

出典：河川水辺の国勢調査

## 2) 五ヶ瀬川中流部

日之影町から延岡市北方町の南半部よりなる中流域は、多数の支川を合わせつつ急峻な溪谷を一気に流下してきた本川が、やや傾斜の緩やかになった谷間を川幅を拡げつつ下流部へ向かう区間である。河岸は高水敷のない単断面で、その一部では礫と岩等が混在し、大きな瀬や淵を有している等、自然河川の様相を呈している。これらの瀬や淵は魚類の良好な生息地となっており、釣り場としても人気が高い。また、延岡市北方町川水流付近の「鮎やな」は、五ヶ瀬川に架けられる3つの「やな」のうち最も上流に架かる「やな」であり、日本一大きな鮎が落ちる「やな」と称されている。この区間では、河床勾配は緩やかになりつつも河畔付近まで山々が迫っており、針葉樹、照葉樹が生い茂る山間地は、多様な動植物の生息・生育地となっている。

植物は、支川・綱ノ瀬川の源流域である鬼の目山には、世界中でここにしか自生していないツチビノキが生育している。魚類は、アユをはじめ、カマキリ、ナマズ、カワアナゴなどの重要な魚類が生息している。鳥類は、カワウ、オオヨシキリ、サギ類などが生息している。昆虫類は、河川沿いに重要種のおオムラサキが生息するとともに、北部の祖母傾国定公園に向かって延びる支川沿いにはアカシジミなどの蝶類が見られる。



カマキリ

(国：絶滅危惧Ⅱ類、県：準絶滅危惧)

出典：河川水辺の国勢調査



アオサギ

出典：河川水辺の国勢調査

### 3) 五ヶ瀬川下流部

延岡市北方町と延岡市上三輪町<sup>かみみわまち</sup>の境界付近から下流部に入る五ヶ瀬川は、岩熊井堰<sup>いわぐまいげき</sup>より流れが穏やかになり中洲や河原を形成している。その後、延岡市中部の吉野町<sup>よしのちょう</sup>付近で五ヶ瀬川は大瀬川と分流し、河口より2キロの地点で祝子川を、河口付近で北川と合流して日向灘へ注いでいる。また、分流した大瀬川については、五ヶ瀬川より豊富な水量をもって日向灘へと注いでいる。なお、河口付近は小規模ながら段丘や三角州、沖積低地を形成しており、海岸には砂丘や砂州が広がっている。

植物は、高水敷にヨシ、オギなどの植物群落が広範囲に分布し、河川沿いには重要種のタコノアシ、ミゾコウジュ、カワヂシャなどが生育している。河口付近は、多くの河川が流れ込み、海岸線が複雑に入り込んでいることから、塩沼地が随所に見られ、シオクグ、ナガミノオニシバなどの塩生植物が生育している。魚類は、アユをはじめ、コイ、ギンブナ、ボウズハゼ、ウグイ、オイカワ、ヨシノボリ類などの普通種に加え、ミナミメダカ、カマキリ、カワアナゴ、トビハゼ、チクゼンハゼなどの重要種が生息している。底生動物は、タケノコカワニナ、ヤマトシジミ、カワスナガニ、チゴガニ、ベンケイガニなどの重要な貝類・カニ類のほか、コガタノゲンゴロウなどの重要な水生昆虫類が生息している。鳥類は、五ヶ瀬川下流域から河口にかけて鳥類の宝庫となっており、特に河口域ではサギ類のコロニーが存在する。また、ミサゴ、チュウサギ、イカルチドリ、シロチドリなどの重要種が生息している。両生類は、河川沿いの湿地帯において、ニホンアマガエル、ヌマガエルなどが生息している。爬虫類は、宮崎県の天然記念物であり、重要種のアカウミガメの産卵が見られる砂浜が存在している。また、ニホンカナヘビ、シマヘビなどが生息している。哺乳類は、河川敷において、アカネズミ、カヤネズミなどの小型哺乳類から、タヌキ、テン、ノウサギなどの大型哺乳類が生息している。昆虫類は、アオサナエ、ヒメアカネ、コムラサキ、ヤマトアシナガバチなどの重要種が生息している。



**タコノアシ**

(国：準絶滅危惧、県：準絶滅危惧)  
出典：河川水辺の国勢調査



**アユ**

出典：河川水辺の国勢調査



**カワスナガニ**

(国：準絶滅危惧、県：絶滅危惧Ⅱ類)  
出典：河川水辺の国勢調査



**コガタノゲンゴロウ**

(国：絶滅危惧Ⅱ類、県：準絶滅危惧)  
出典：河川水辺の国勢調査



**シロチドリ**

(国：絶滅危惧Ⅱ類、県：絶滅危惧Ⅱ類)  
出典：河川水辺の国勢調査



**カヤネズミ**

(県：準絶滅危惧)  
出典：河川水辺の国勢調査

#### 4) 北川上流・中流部

北川上流部の山岳地帯は、祖母傾国定公園に指定され、ブナやツガの原生林と調和して、雄大な山岳景観を呈している。

植物は、河川敷等においてツルヨシ、ススキなどの群落が見られるほか、「日本の重要湿地500」等に指定されている北川湿原（<sup>ま</sup>家田・<sup>かわ</sup>川坂湿原）には、オグラコウホネなどの重要種が多く生育している。魚類は、良好な瀬・淵が形成された水域にアユが生息しており、重要種ではカマキリの生息が確認されている。鳥類は、クマタカなど重要な猛禽類の生息が確認されている。昆虫類は、延岡市北川町のシンボルであるゲンジボタルが生息している。

#### 5) 北川下流部

河口から川島地区までの区間には川沿いに住宅地が存在するが、それより上流では主に耕作地として利用されるほか、山付き区間が多く見られる。

植物は、河原にヨシ、ジャヤナギ、エノキ等が分布し、河口部の塩生湿地には、重要種のハマナツメ、ハマボウ、シバナ、コアマモなどが生育している。魚類は、汽水性の重要種として、アカメ、ヒモハゼ、トビハゼ、マサゴハゼ、チクゼンハゼなどの生息が確認されている。底生動物は、カワスナガニ、チゴガニ、ハクセンシオマネキなど、重要なカニ類が多く生息している。鳥類は、チュウサギ、ホオアカなどの重要種が生息している。河川沿いや高水敷には、ニホンアマガエル、ヌマガエルなどの両生類やニホンカナヘビ、シマヘビなどの爬虫類が生息している。哺乳類は、重要種のカヤネズミのほか、アカネズミ、タヌキなどが生息している。昆虫類は、タテハモドキ、コムラサキなどの蝶類が生息している。



**ハマボウ**  
(県：準絶滅危惧)

出典：河川水辺の国勢調査



**アカメ**  
(国：絶滅危惧ⅠB類、県：絶滅危惧Ⅱ類)

出典：河川水辺の国勢調査

6) 五ヶ瀬川水系の生物

最新年の河川水辺の国勢調査結果をもとに、各生物相の概要を整理した。

表 2-1 各生物相の概要

調査項目	生物相の概要
植物	平成 29 年度（2017 年度）の現地調査では、122 科 674 種が確認されている。 重要種は、カワヂシャ、タコノアシ、ミゾコウジュ等の 27 種が確認されている。 特定外来生物は、オオフサモが確認されている。
魚類	令和 2 年度（2020 年度）の現地調査では、31 科 82 種が確認されている。 重要種は、ミナミメダカ、アカメ、カマキリ、カワアナゴ、トビハゼ、アシシロハゼ、マサゴハゼ、ウキゴリ等の 16 種が確認されている。 特定外来生物は確認されていない。
底生動物	平成 31 年度（2019 年度）の現地調査では、39 目 127 科 281 種が確認されている。 重要種は、タケノコカワニナ、ヤマトシジミ、カワスナガニ、チゴガニ、コガタノゲンゴロウ等の 51 種が確認されている。 特定外来生物は確認されていない。
鳥類	平成 24 年度（2012 年度）の現地調査では、14 目 30 科 83 種が確認されている。 重要種は、ミサゴ、チュウサギ、イカルチドリ、シロチドリ、ヒクイナ、ホオアカ等の 13 種が確認されている。 特定外来生物は確認されていない。
両生類 爬虫類 哺乳類	平成 25 年度（2013 年度）の現地調査では、両生類 3 種、爬虫類 6 種、哺乳類 12 種が確認されている。 重要種は、両生類・爬虫類では確認されず、哺乳類のカヤネズミ、イタチ属(イタチの場合)が確認されている。 特定外来生物は確認されていない。
陸上昆虫類	平成 30 年度（2018 年度）の現地調査では、17 目 209 科 1282 種（昆虫類 1194 種、クモ類 88 種）が確認されている。 重要種は、アオサナエ、ヒメアカネ、コムラサキ、ウスイロシマゲンゴロウ、ヤマトアシナガバチ等の 25 種が確認されている。 特定外来生物は確認されていない。

表 2-2 五ヶ瀬川における河川水辺の国勢調査の実施状況

調査項目 \ 調査年度	H4	H5	H6	H7	H8	H9	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2
植物調査	●				●				●							●										●			
河川環境基因																				●					●				
魚類調査			●						●		●	●		●					●					●					●
底生動物調査			●					●					●					●					●						●
鳥類調査	●				●				●		●	●								●									
両生類・爬虫類・哺乳類調査		●					●					●										●							
陸上昆虫类等調査	●				●						●								●									●	

※植物以外の調査項目の序列は、「河川水辺の国勢調査マニュアル」に準拠して整理している。

これまで五ヶ瀬川水系で実施された河川水辺の国勢調査結果等に基づき、学術上の重要性及び希少性の観点から、下表に示す選定基準に該当する種を重要種として選定した。五ヶ瀬川水系における近年の河川水辺の国勢調査で確認された重要種を以下に示す。

表 2-3 (1) 重要種選定基準

文献 No.	区分	所管管理者	年度	内容	選定対象 ( ) 内略号
1	文化財保護法 文化財保護条例	文化庁 都道府県	昭和 25 1950	学術上価値の高い動植物等のうち重要なものを天然記念物に指定	国指定天然記念物 (国天) 都道府県指定天然記念物 (県天) 市町村指定天然記念物 (市町天)
2	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律	環境庁	平成 5 1993	絶滅のおそれのある野生動植物種を指定し、捕獲、譲渡、輸出入等の規制により保護	国内稀少野生動物種 (絶滅) (対象: 植物、魚類、鳥類、両生類、爬虫類、哺乳類、昆虫類)
3	宮崎県野生動植物の保護に関する条例	宮崎県	平成 17 2005	絶滅のおそれのある野生動植物種を指定し、捕獲、譲渡等の規制により保護	稀少野生動植物一次指定 <一次> 稀少野生動植物二次指定 <二次> (対象: 植物、魚類、鳥類、両生類、哺乳類、昆虫類)
4	環境省レッドリスト 2020	環境省	令和 2 2020	哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、その他無脊椎動物 (クモ形類、甲殻類等)、植物 (維管束植物)、植物 (維管束植物以外: 蘚苔類、藻類、地衣類、菌類) を対象	絶滅 (EX) 野生絶滅 (EW) 絶滅危惧 I A 類 (CR) 絶滅危惧 I B 類 (EN) 絶滅危惧 I 類 (CR+EN) 絶滅危惧 II 類 (VU) 準絶滅危惧 (NT) 情報不足 (DD) 絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)
5	宮崎県レッドリスト 2015 年度改訂版	宮崎県	平成 27 2015	宮崎県における絶滅のおそれのある野生生物、植物群落を選定	絶滅 (EX-d) 絶滅危惧 I A 類 <CR-r, CR-g, CR-d> 絶滅危惧 I B 類 (EN-r, EN-g) 絶滅危惧 II 類 (VU-r, VU-g) 準絶滅危惧 (NT-r, NT-g) 情報不足 (DD-1, DD-2) その他保護上重要な種 <OT-1, OT-2>

表2-3 (2) 五ヶ瀬川水系の河川水辺の国勢調査で確認された植物の重要種

生物	重要種	
植物	<p>シバナ(環境省 RL：準絶滅危惧，宮崎県 RL：絶滅危惧Ⅱ類)                      コアマモ(宮崎県 RL：準絶滅危惧)                      イトクズモ(環境省 RL：絶滅危惧Ⅱ類，宮崎県 RL：絶滅危惧ⅠA類)                      カワツルモ(環境省 RL：準絶滅危惧，宮崎県 RL：絶滅危惧ⅠA類)                      シラン(環境省 RL：準絶滅危惧，宮崎県 RL：準絶滅危惧)                      ギンラン(宮崎県 RL：絶滅危惧Ⅱ類)                      ハナビゼキショウ(宮崎県 RL：絶滅危惧ⅠA類)                      ヒメコウガイゼキショウ(宮崎県 RL：準絶滅危惧)                      ホソイ(宮崎県 RL：絶滅危惧Ⅱ類)                      イセウキヤガラ(宮崎県 RL：準絶滅危惧)                      クサスゲ(宮崎県 RL：絶滅危惧Ⅱ類)                      シチトウイ(宮崎県 RL：準絶滅危惧)                      コツブヌマハリイ(環境省 RL：絶滅危惧Ⅱ類)                      ナガボテンツキ(宮崎県 RL：絶滅危惧ⅠA類)                      ヒメホタルイ(宮崎県 RL：準絶滅危惧)                      マツカサススキ(宮崎県 RL：絶滅危惧ⅠA類)                      ドジョウツナギ(宮崎県 RL：準絶滅危惧)                      アイアシ(宮崎県 RL：準絶滅危惧)                      ナガミノツルケマン(環境省 RL：準絶滅危惧)                      コウモリカズラ(宮崎県 RL：絶滅危惧ⅠA類)                      タガラシ(宮崎県 RL：準絶滅危惧)                      タコノアシ(環境省 RL：準絶滅危惧，宮崎県 RL：準絶滅危惧)                      ホザキノフサモ(宮崎県 RL：準絶滅危惧)                      フサモ属(宮崎県 RL：絶滅危惧ⅠA類)                      イヌハギ(環境省 RL：絶滅危惧Ⅱ類，宮崎県 RL：絶滅危惧ⅠB類)                      ハマナツメ(環境省 RL：絶滅危惧Ⅱ類，宮崎県 RL：絶滅危惧Ⅱ類)                      ヒトツバハギ(宮崎県 RL：準絶滅危惧)                      ヒメミソハギ(宮崎県 RL：絶滅危惧ⅠB類)                      ミズマツバ(環境省 RL：絶滅危惧Ⅱ類)                      ハマボウ(宮崎県 RL：準絶滅危惧)                      コイヌガラシ(環境省 RL：準絶滅危惧，宮崎県 RL：絶滅危惧Ⅱ類)                      ミチヤナギ(宮崎県 RL：絶滅危惧Ⅱ類)                      コギシギシ(環境省 RL：絶滅危惧Ⅱ類，宮崎県 RL：準絶滅危惧)                      ニセコガネギシギシ(環境省 RL：情報不足)                      フシグロ(宮崎県 RL：絶滅危惧ⅠA類)                      ホソバハマアカザ(宮崎県 RL：絶滅危惧Ⅱ類)                      ハママツナ(宮崎県 RL：絶滅危惧ⅠA類)                      ヨツバムグラ(宮崎県 RL：絶滅危惧ⅠB類)                      ガガイモ(宮崎県 RL：準絶滅危惧)                      アオイゴケ(宮崎県 RL：絶滅危惧Ⅱ類)                      グンバイヒルガオ(宮崎県 RL：絶滅危惧Ⅱ類)                      カワヂシャ(環境省 RL：準絶滅危惧)                      ミヅコウジュ(環境省 RL：準絶滅危惧，宮崎県 RL：準絶滅危惧)                      ヒメナミキ(宮崎県 RL：絶滅危惧ⅠB類)                      スズメノハコベ(環境省 RL：絶滅危惧Ⅱ類，宮崎県 RL：準絶滅危惧)                      ハマニガナ(宮崎県 RL：準絶滅危惧)                      オナモミ(環境省 RL：絶滅危惧Ⅱ類，宮崎県 RL：情報不足)                      シャク(宮崎県 RL：準絶滅危惧)                      ハマボウフウ(宮崎県 RL：準絶滅危惧)                      チャイロカワモズク(環境省 RL：準絶滅危惧)                      アオカワモズク(環境省 RL：準絶滅危惧)</p>	51種

表 2-3 (3) 五ヶ瀬川水系の河川水辺の国勢調査で確認された魚類の重要種

生物	重要種	
魚類	ニホンウナギ(環境省：絶滅危惧 I B 類，宮崎県 RL：絶滅危惧 I B 類) モツゴ(宮崎県 RL：情報不足) ドジョウ(環境省：準絶滅危惧，宮崎県 RL：準絶滅危惧) ヤマトシマドジョウ(環境省 RL：絶滅危惧 II 類，宮崎県 RL：絶滅危惧 II 類) ナマズ(宮崎県 RL：準絶滅危惧) ヨウジウオ(宮崎県 RL：絶滅危惧 II 類) ミナミメダカ(環境省 RL：絶滅危惧 II 類，宮崎県 RL：絶滅危惧 I A 類) アカメ(希少野生動物植物一次指定，環境省 RL：絶滅危惧 I B 類，宮崎県 RL：絶滅危惧 II 類) ナンヨウタカサゴイシモチ(環境省 RL：情報不足) シラヌイハタ(環境省 RL：情報不足) ヤマトイトヒキサギ(宮崎県 RL：準絶滅危惧) セダカダイミョウサギ(宮崎県 RL：準絶滅危惧) カマキリ(環境省 RL：絶滅危惧 II 類，宮崎県 RL：準絶滅危惧) タナゴモドキ(環境省 RL：絶滅危惧 I B 類) カワアナゴ(宮崎県 RL：準絶滅危惧) ホシマダラハゼ(環境省 RL：絶滅危惧 II 類) タメトモハゼ(環境省 RL：絶滅危惧 I B 類) イドミズハゼ(環境省 RL：準絶滅危惧，宮崎県 RL：情報不足) ヒモハゼ(環境省 RL：準絶滅危惧，宮崎県 RL：準絶滅危惧) シロウオ(環境省 RL：絶滅危惧 II 類，宮崎県 RL：準絶滅危惧) チワラスボ類(環境省 RL：絶滅危惧 I B 類) トビハゼ(環境省 RL：準絶滅危惧，宮崎県 RL：絶滅危惧 II 類) アシシロハゼ(宮崎県 RL：準絶滅危惧) ゴマハゼ(環境省 RL：絶滅危惧 II 類) マサゴハゼ(環境省 RL：絶滅危惧 II 類) ルリヨシノボリ(宮崎県 RL：準絶滅危惧) スミウキゴリ(宮崎県 RL：準絶滅危惧) ウキゴリ(宮崎県 RL：準絶滅危惧) チクゼンハゼ(環境省 RL：絶滅危惧 II 類，宮崎県 RL：絶滅危惧 II 類) クボハゼ(環境省 RL：絶滅危惧 I B 類，宮崎県 RL：絶滅危惧 II 類)	30 種

表2-3 (4) 五ヶ瀬川水系の河川水辺の国勢調査で確認された底生動物の重要種 (1)

生物	重要種	
底生動物	ヒロクチカノコガイ(環境省 RL: 準絶滅危惧, 宮崎県 RL: 絶滅危惧Ⅱ類)	91種
	ベッコウフネアマガイ(環境省 RL: 準絶滅危惧)	
	コゲツノブエガイ(環境省 RL: 絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県 RL: 絶滅危惧ⅠA類)	
	ウミニナ(環境省 RL: 準絶滅危惧, 宮崎県 RL: 絶滅危惧ⅠB類)	
	タケノコカワニナ(環境省 RL: 絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県 RL: 絶滅危惧ⅠB類)	
	フトヘナタリガイ(環境省 RL: 準絶滅危惧, 宮崎県 RL: 準絶滅危惧)	
	カワアイガイ(環境省 RL: 絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県 RL: 準絶滅危惧)	
	カワグチツボ(環境省 RL: 準絶滅危惧, 宮崎県 RL: 準絶滅危惧)	
	サザナミツボ(環境省 RL: 準絶滅危惧, 宮崎県 RL: 準絶滅危惧)	
	クリイロカワザンショウガイ(環境省 RL: 準絶滅危惧)	
	ツブカワザンショウガイ(環境省 RL: 準絶滅危惧, 宮崎県 RL: 絶滅危惧Ⅱ類)	
	ヒナタムシヤドリカワザンショウガイ(環境省 RL: 準絶滅危惧)	
	ヨシダカワザンショウガイ(環境省 RL: 準絶滅危惧)	
	ウミゴマツボ(環境省 RL: 準絶滅危惧, 宮崎県 RL: 絶滅危惧Ⅱ類)	
	コメツブツララガイ(環境省 RL: 絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県 RL: 準絶滅危惧)	
	コヤスツララガイ(環境省 RL: 準絶滅危惧, 宮崎県 RL: 絶滅危惧Ⅱ類)	
	カキウラクチキレモドキ(宮崎県 RL: 絶滅危惧Ⅱ類)	
	ヨコイトカケギリガイ(宮崎県 RL: 絶滅危惧Ⅱ類)	
	シゲヤスイトカケギリガイ(環境省 RL: 準絶滅危惧, 宮崎県 RL: 準絶滅危惧)	
	ナラビオカミミガイ(環境省 RL: 絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県 RL: 絶滅危惧ⅠB類)	
	キヌカツギハマシイノミガイ(環境省 RL: 絶滅危惧Ⅱ類)	
	モノアラガイ(環境省 RL: 準絶滅危惧, 宮崎県 RL: 準絶滅危惧)	
	ヒラマキミズマイマイ(環境省 RL: 情報不足, 宮崎県 RL: 情報不足)	
	ナガオカモノアラガイ(環境省 RL: 準絶滅危惧, 宮崎県 RL: 絶滅危惧ⅠA類)	
	ヌマガイ(宮崎県 RL: 準絶滅危惧)	
	コハギガイ(環境省 RL: 情報不足)	
	ヤマトシジミ(環境省 RL: 準絶滅危惧, 宮崎県 RL: 情報不足)	
	マシジミ(環境省 RL: 絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県 RL: 準絶滅危惧)	
	オキシジミ(宮崎県 RL: 準絶滅危惧)	
	スダレハマグリ(環境省 RL: 準絶滅危惧, 宮崎県 RL: 絶滅危惧ⅠB類)	
	ハマグリ(環境省 RL: 絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県 RL: 準絶滅危惧)	
	アサリ(宮崎県 RL: 情報不足)	
	ユウシオガイ(環境省 RL: 準絶滅危惧, 宮崎県 RL: 絶滅危惧Ⅱ類)	
	テリザクラガイ(環境省 RL: 絶滅危惧Ⅱ類)	
	ハザクラガイ(環境省 RL: 準絶滅危惧, 宮崎県 RL: 絶滅危惧Ⅱ類)	
	オチバガイ(環境省 RL: 準絶滅危惧, 宮崎県 RL: 絶滅危惧Ⅱ類)	
	コオキナガイ(環境省 RL: 絶滅危惧ⅠA類)	
	ソトオリガイ(宮崎県 RL: 絶滅危惧Ⅱ類)	
	ミドリビル(環境省 RL: 情報不足)	
	イボビル(環境省 RL: 情報不足)	
エドシロクーマ(宮崎県 RL: 絶滅危惧Ⅱ類)		
ヘコミカマカ(宮崎県 RL: 準絶滅危惧)		
ムロミスノウミナナフシ(宮崎県 RL: 準絶滅危惧)		
ヒガタスナホリムシ(環境省 RL: 準絶滅危惧, 宮崎県 RL: 絶滅危惧Ⅱ類)		
ヒラテテナガエビ(宮崎県 RL: 準絶滅危惧)		
テナガエビ(宮崎県 RL: 準絶滅危惧)		
アナジャコ(宮崎県 RL: 準絶滅危惧)		
マメコブシガニ(宮崎県 RL: 絶滅危惧Ⅱ類)		
アカテノコギリガザミ(宮崎県 RL: 準絶滅危惧)		
トゲノコギリガザミ(宮崎県 RL: 準絶滅危惧)		
アミメノコギリガザミ(宮崎県 RL: その他の保護上重要な種)		
クロベンケイガニ(宮崎県 RL: 準絶滅危惧)		
アカテガニ(宮崎県 RL: 準絶滅危惧)		
ウモレベンケイガニ(宮崎県 RL: 絶滅危惧ⅠA類)		
フタバカクガニ(宮崎県 RL: 準絶滅危惧)		

表 2-3 (4) 五ヶ瀬川水系の河川水辺の国勢調査で確認された底生動物の重要種 (2)

生物	重要種	
底生動物	アミメノコギリガザミ(宮崎県 RL: その他の保護上重要な種) クロベンケイガニ(宮崎県 RL: 準絶滅危惧) アカテガニ(宮崎県 RL: 準絶滅危惧) ウモレベンケイガニ(宮崎県 RL: 絶滅危惧 I A 類) フタバカクガニ(宮崎県 RL: 準絶滅危惧) カクベンケイガニ(宮崎県 RL: 準絶滅危惧) クシテガニ(宮崎県 RL: 絶滅危惧 II 類) ベンケイガニ(宮崎県 RL: 絶滅危惧 II 類) トリウミアカイソモドキ(宮崎県 RL: 絶滅危惧 II 類) ハマガニ(宮崎県 RL: 準絶滅危惧) ヒメアシハラガニ(宮崎県 RL: 準絶滅危惧) アシハラガニ(宮崎県 RL: 準絶滅危惧) トゲアシヒライソガニモドキ(宮崎県 RL: 絶滅危惧 II 類) ミナミアシハラガニ(宮崎県 RL: 絶滅危惧 I A 類) ヒメヒライソモドキ(宮崎県 RL: 絶滅危惧 II 類) タイワンヒライソモドキ(宮崎県 RL: 絶滅危惧 II 類) タイワンオオヒライソガニ(環境省 RL: 情報不足, 宮崎県 RL: 情報不足) ムツハアリアケガニ(宮崎県 RL: 絶滅危惧 I A 類) アリアケモドキ(宮崎県 RL: 絶滅危惧 II 類) カワスナガニ(環境省 RL: 準絶滅危惧, 宮崎県 RL: 絶滅危惧 II 類) チゴガニ(宮崎県 RL: 準絶滅危惧) コメツキガニ(宮崎県 RL: 準絶滅危惧) チゴイワガニ(宮崎県 RL: 絶滅危惧 II 類) オサガニ(宮崎県 RL: 準絶滅危惧) ヒメヤマトオサガニ(宮崎県 RL: 準絶滅危惧) ヤマトオサガニ(宮崎県 RL: 準絶滅危惧) ハクセンシオマネキ(環境省 RL: 絶滅危惧 II 類, 宮崎県 RL: 準絶滅危惧) スナガニ(宮崎県 RL: 準絶滅危惧) シオマネキ(環境省 RL: 絶滅危惧 II 類, 宮崎県 RL: 絶滅危惧 I A 類) フタハピンノ(宮崎県 RL: 絶滅危惧 II 類) キイロサナエ(環境省 RL: 準絶滅危惧, 宮崎県 RL: 絶滅危惧 II 類) オナガサナエ(宮崎県 RL: 準絶滅危惧) アオサナエ(宮崎県 RL: 準絶滅危惧) オオアメンボ(宮崎県 RL: 準絶滅危惧) キボシケシゲンゴロウ(環境省 RL: 情報不足) コガタノゲンゴロウ(環境省 RL: 絶滅危惧 II 類, 宮崎県 RL: 準絶滅危惧) キベリマメゲンゴロウ(環境省 RL: 準絶滅危惧, 宮崎県 RL: 絶滅危惧 II 類) ツマキレオナガミズスマシ(環境省 RL: 絶滅危惧 II 類, 宮崎県 RL: 絶滅危惧 I B 類) コオナガミズスマシ(環境省 RL: 絶滅危惧 II 類) クビボソコガシラミズムシ(環境省 RL: 情報不足) ヨコミゾドロムシ(環境省 RL: 絶滅危惧 II 類)	91 種

表 2-3 (5) 五ヶ瀬川水系の河川水辺の国勢調査で確認された鳥類の重要種

生物	重要種	
鳥類	ツクシガモ(環境省 RL: 絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県 RL: 絶滅危惧Ⅱ類) オシドリ(環境省 RL: 情報不足, 宮崎県 RL: 情報不足) トモエガモ(環境省 RL: 絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県 RL: 絶滅危惧Ⅱ類) ヨシゴイ(環境省 RL: 準絶滅危惧, 宮崎県 RL: 絶滅危惧Ⅱ類) チュウサギ(環境省 RL: 準絶滅危惧) ヒクイナ(環境省 RL: 準絶滅危惧, 宮崎県 RL: 準絶滅危惧) イカルチドリ(宮崎県 RL: 準絶滅危惧) シロチドリ(環境省 RL: 絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県 RL: 絶滅危惧Ⅱ類) セイタカシギ(環境省 RL: 絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県 RL: 準絶滅危惧) タカブシギ(環境省 RL: 絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県 RL: 準絶滅危惧) ハマシギ(環境省 RL: 準絶滅危惧) コアジサシ(環境省 RL: 絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県 RL: 絶滅危惧ⅠB類) ミサゴ(環境省 RL: 準絶滅危惧) ハイイロチュウヒ(宮崎県 RL: 絶滅危惧Ⅱ類) ハイタカ(環境省 RL: 準絶滅危惧, 宮崎県 RL: 準絶滅危惧) オオタカ(環境省 RL: 準絶滅危惧, 宮崎県 RL: 準絶滅危惧) サシバ(環境省 RL: 絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県 RL: 準絶滅危惧) フクロウ(宮崎県 RL: 絶滅危惧Ⅱ類) コミミズク(宮崎県 RL: 準絶滅危惧) ハヤブサ(環境省 RL: 絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県 RL: 準絶滅危惧) コシアカツバメ(宮崎県 RL: 準絶滅危惧) コサメビタキ(宮崎県 RL: 情報不足) ホオアカ(宮崎県 RL: その他の保護上重要な種)	23 種

表 2-3 (6) 五ヶ瀬川水系の河川水辺の国勢調査で確認された爬虫類・哺乳類の重要種

生物	重要種	
爬虫類	ニホンイシガメ(環境省 RL: 準絶滅危惧, 宮崎県 RL: 絶滅危惧Ⅱ類) クサガメ(宮崎県 RL: 絶滅危惧Ⅱ類) ニホンスッポン(環境省 RL: 情報不足, 宮崎県 RL: 情報不足)	3 種
哺乳類	カヤネズミ(宮崎県 RL: 準絶滅危惧) イタチ属(宮崎県 RL: 情報不足)	2 種

表 2-3 (7) 五ヶ瀬川水系の河川水辺の国勢調査で確認された陸上昆虫類の重要種

生物	重要種	
陸上 昆虫類	ネアカヨシヤンマ(環境省 RL: 準絶滅危惧, 宮崎県 RL: 絶滅危惧Ⅱ類)	
	アオサナエ(宮崎県 RL: 準絶滅危惧)	
	ヒメアカネ(宮崎県 RL: 準絶滅危惧)	
	カラスシジミ(宮崎県 RL: 準絶滅危惧)	
	ゴイシシジミ(宮崎県 RL: 準絶滅危惧)	
	コムラサキ(宮崎県 RL: 準絶滅危惧)	
	ヒオドシチョウ(宮崎県 RL: 準絶滅危惧)	
	ウラナミジャノメ本土亜種(環境省 RL: 絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県 RL: 準絶滅危惧)	
	ミカドアゲハ本土亜種(宮崎県 RL: その他の保護上重要な種)	
	ツマグロキチョウ(環境省 RL: 絶滅危惧ⅠB類, 宮崎県 RL: 準絶滅危惧)	
	ゴマフツトガ(環境省 RL: 準絶滅危惧)	
	スゲドクガ(環境省 RL: 準絶滅危惧)	
	コシロシタバ(環境省 RL: 準絶滅危惧, 宮崎県 RL: 準絶滅危惧)	
	カギモンハナオイアツバ(環境省 RL: 準絶滅危惧)	
	エサキニセヒメガガンボ(環境省 RL: 情報不足)	
	キバネキバナガミズギワゴミムシ(環境省 RL: 絶滅危惧Ⅱ類)	
	ウミホソチビゴミムシ(環境省 RL: 準絶滅危惧)	
	ヨドシロヘリハンミョウ(環境省 RL: 絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県 RL: 絶滅危惧Ⅱ類)	35 種
	エリザハンミョウ(宮崎県 RL: 準絶滅危惧)	
	コハンミョウ(宮崎県 RL: 準絶滅危惧)	
	セスジゲンゴロウ(宮崎県 RL: 絶滅危惧ⅠB類)	
	ホソセスジゲンゴロウ(宮崎県 RL: 準絶滅危惧)	
	コガタノゲンゴロウ(環境省 RL: 絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県 RL: 準絶滅危惧)	
	ウスイロシマゲンゴロウ(宮崎県 RL: 準絶滅危惧)	
	キベリマメゲンゴロウ(環境省 RL: 準絶滅危惧, 宮崎県 RL: 絶滅危惧Ⅱ類)	
	ツマキレオナガミズスマシ(環境省 RL: 絶滅危惧Ⅱ類, 宮崎県 RL: 絶滅危惧ⅠB類)	
	クビボソコガシラミズムシ(環境省 RL: 情報不足)	
	クロシオガムシ(環境省 RL: 準絶滅危惧)	
	クシヒゲアリヅカムシ(環境省 RL: 絶滅危惧Ⅱ類)	
	ハラグロオオテントウ(宮崎県 RL: 準絶滅危惧)	
	オオテントウ(宮崎県 RL: 準絶滅危惧)	
	トラフカミキリ(宮崎県 RL: 準絶滅危惧)	
	ヤマトアシナガバチ(環境省 RL: 情報不足)	
	フタモンクモバチ(環境省 RL: 準絶滅危惧)	
	アオスジクモバチ(環境省 RL: 情報不足)	

## 2-3 特徴的な河川景観や文化財等

### 1) 観光及び景勝地

五ヶ瀬川流域には、すぐれた自然景観が非常に多く存在し、国や県、市町においてそれらの保全が図られているとともに、多くの観光客を誘致する資源となっている。

上流部から中流部にかけては祖母傾<sup>そぼかたむき</sup>国定公園、祖母傾県立自然公園に指定されており、高千穂峡<sup>たかちほきょう</sup>、見立<sup>みたて</sup>溪谷などの溪谷や滝など、河川に関わりの深い山岳景勝地が多く、四季を通して行楽に訪れる人々で賑わいを見せている。祝子川上流の大崩山<sup>おおくねやま</sup>や比叡山<sup>ひえいざん</sup>～矢筈岳<sup>やはすだけ</sup>周辺は、険峻な山岳と四季を通じて自然林や花々を愛でる自然景観を鑑賞しながらの登山コースとして人気が高い。

下流域から河口部は、砂州や砂丘などの海岸景観がすぐれており、延岡市長浜海岸においてはアカウミガメの産卵地として、美しい砂浜となっている。



#### 高千穂峡と真名井<sup>まな井</sup>の滝

三田井市街の南西約 1.5 km、阿蘇溶岩台地が数億年もの間五ヶ瀬川に浸食されてできた深いV字形の峡谷。延長 2 kmあまりに渡って続いており、「五ヶ瀬峡谷（高千穂峡）」として、国の名勝に指定されている。両岸には高さ 50～100mの断崖が見事な柱状節理を見せてそそり立ち、崖上に茂る樹木が谷を覆って、神秘的な雰囲気醸し出している。

出典：パンフレット「日本のふるさと高千穂」



#### 見立溪谷

祖母傾山系を源流とする全長 38 kmの日の影川上流に位置する。急流に浸食された花崗岩系の奇岩・怪岩がいたるところに露出する。高地の植物が有名で、春の新緑と秋の紅葉の美しさで名所となっている。また、かもしかの森にある「英国館」は、国の登録有形文化財に指定されている。

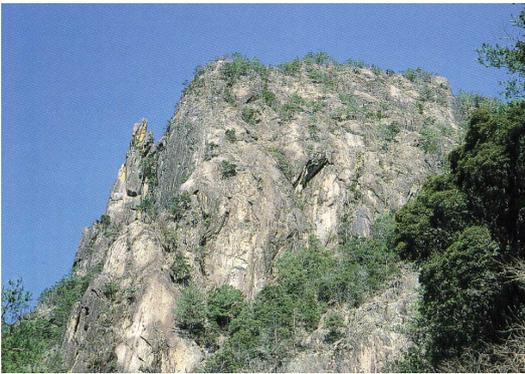
出典：パンフレット「ふるさと日の影・浪漫散策」



### 大崩山

祖母傾国定公園及び祖母傾県立自然公園に含まれる。山容は自然林におおわれ、変化豊かな大小の岩峰が随所にそそり立っている。永い歴史の中で造形された深い溪谷、花崗岩からなる岩石と清流、豊富な植物に加えカモシカの棲息地としても知られる。また、登山としても人気が高い。

出典：パンフレット「きたがわ」（北川町）



### 比叡山

標高は 918m、花崗岩のスラブで鎧われたこの山は、昭和 14 年に国の名勝に指定された。網の瀬川の流れから一気に立ち上がる岩山で、対岸には険峻な矢筈岳が聳えている。

出典：パンフレット「北方見聞」（北方町）



### むかばき 行藤の滝

延岡市の行藤山にある落差 77m、幅 30m の滝。日本の滝 100 選に選ばれており、垂直の岩壁を水が滑り落ちる様は近くで見ると迫力がある。

出典：パンフレット「まるごと延岡」（延岡市）

## 2) 文化財

五ヶ瀬川流域には歴史的に重要な文化財、史跡も多く、下表に示すとおり国指定で12件、県指定で28件の文化財がある。



てつぞうこまいぬ  
**鉄造狛犬（一対）** 国指定重要文化財

鎌倉時代後期の作と思われる。鑄造の故もあって、狛犬の類型的な形にとられず、たくましく、力強い像形をしている。鑄造狛犬の作例は全国的にもまれである。

出典：パンフレット「神話の里 歴史とのふれあい」（高千穂町）



**高千穂の夜神楽** 国指定重要無形民俗文化財

岩戸神社を舞踏化した33番の神楽が、毎年11月下旬から2月上旬にかけて高千穂地方の集落内に夜を徹して舞われる。

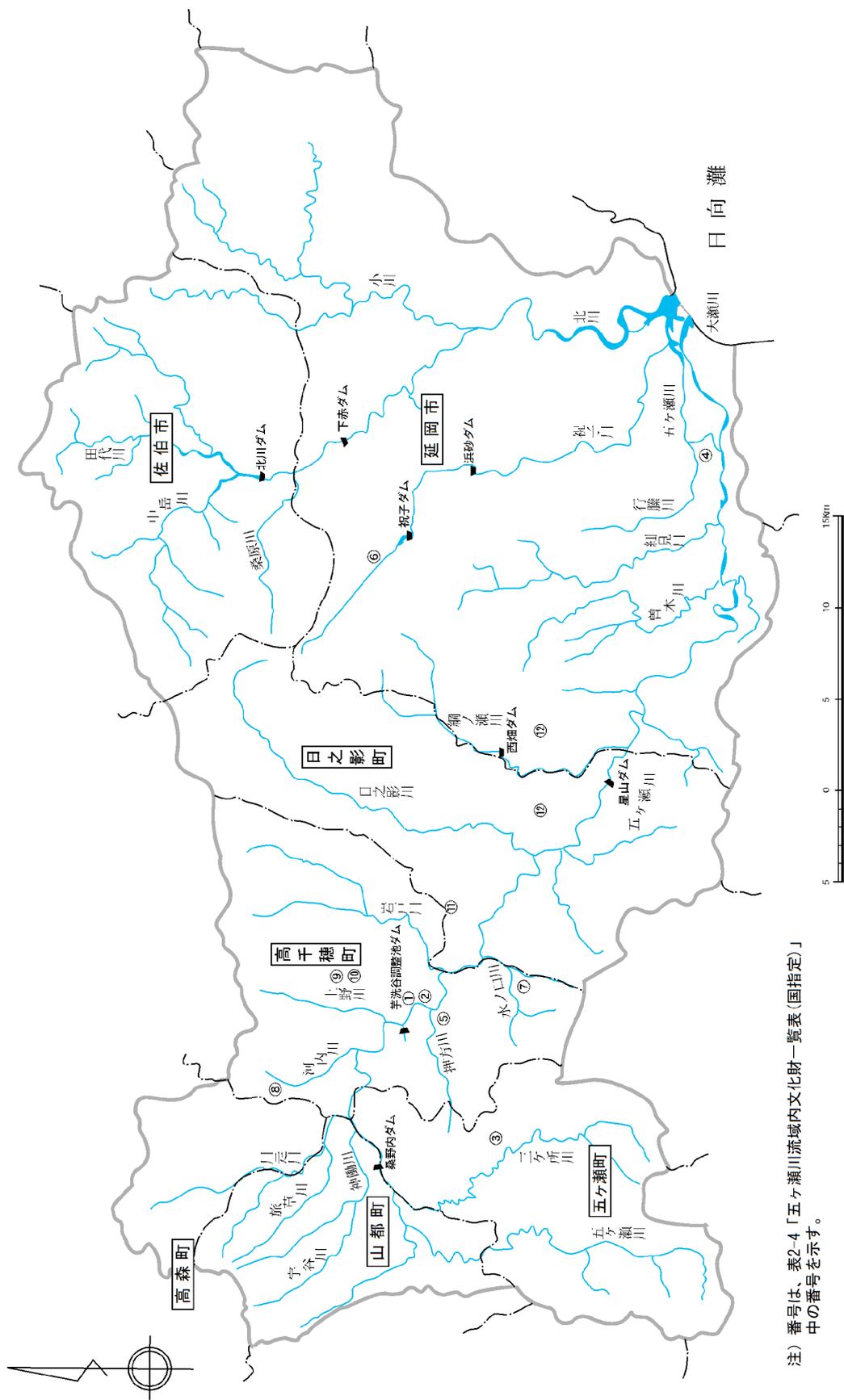
出典：高千穂町ホームページ



ななおれしょうにゅうどう  
**七折鍾乳洞** 国指定天然記念物

総延長140mにおよび、鍾乳石、石筍、石柱、石幕等のほかに、菊花状の方解析の放射晶群を有している。

出典：パンフレット「ふるさとの文化財」（日之影町）



注) 番号は、表2-4「五ヶ瀬川流域内文化財一覧表(国指定)」中の番号を示す。

図2-2 五ヶ瀬川流域内国指定文化財位置図

表2-4 五ヶ瀬川流域内文化財一覧表

(1) 国指定

番号	種別	名 称	所 在 地	指定年月日
	特天	カ モ シ カ	祖母傾山国有林内外(位置を特定せず)	S31. 2. 15
1	重文	鉄 造 狛 犬 ( 一 対 )	宮崎県：高千穂町(高千穂神社)	S46. 6. 22
2	重無	高 千 穂 の 夜 神 楽	宮崎県：高千穂町	S53. 5. 24
3	重無	五 ヶ 瀬 の 荒 踊	宮崎県：五ヶ瀬町	S62. 1. 8
4	史跡	南 方 古 墳 群	宮崎県：延岡市	S18. 9. 8
5	名天	五ヶ瀬川溪谷(高千穂峡)	宮崎県：高千穂町	S 9. 11. 10
6	天	祝子川のモウソウキンメイ竹林	宮崎県：延岡市北川町	S45. 8. 11
7	天	柘 の 滝 鍾 乳 洞	宮崎県：高千穂町	S 8. 2. 28
8	天	田 原 の イ チ ョ ウ	宮崎県：高千穂町	S26. 6. 9
9	天	下 野 八 幡 宮 の ケ ヤ キ	宮崎県：高千穂町	S26. 6. 9
10	天	下 野 八 幡 宮 の イ チ ョ ウ	宮崎県：高千穂町	S26. 6. 9
11	天	七 折 鍾 乳 洞	宮崎県：日之影町	S 8. 2. 28
12	名勝	比 叡 山 お よ び 矢 筈 嶽	宮崎県：延岡市北方町・日之影町	S14. 9. 7

(2) 県指定

番号	種別	名 称	所 在 地	指定年月日
1	有文	鉄 鰐 口 ( 一 口 )	宮崎県：延岡市(行藤神社)	S40. 8. 17
2	有文	鍍 銀 蓮 池 文 華 鬘 ( 二 面 )	宮崎県：延岡市(三福寺)	S40. 8. 17
3	有文	石 造 六 地 蔵 幢	宮崎県：延岡市(内藤記念館)	S40. 8. 17
4	有文	横 穴 墳	宮崎県：日之影町	
5	有文	円 墳	宮崎県：日之影町	
6	有文	石 棺	宮崎県：日之影町	
7	有文	男神像及び女神像(四軀)	宮崎県：高千穂町(高千穂神社)	S34. 7. 10
8	有文	石刻門守神像(二面)	宮崎県：五ヶ瀬町(三ヶ所神社)	S40. 8. 17
9	有文	塩 見 太 師 庵 宝 塔	大分県：佐伯市宇目町	S51. 3. 30
10	重有	切 支 丹 柄 鏡	大分県：佐伯市宇目町	S34. 3. 20
11	無民	柚 木 野 人 形	宮崎県：高千穂町	S37. 5. 15
12	無民	大 人 歌 舞 伎	宮崎県：日之影町	
13	重無	千 束 楽	大分県：佐伯市宇目町	S41. 3. 22
14	史跡	南 州 翁 萬 居 跡	宮崎県：延岡市北川町	S 8. 12. 5
15	史跡	吉野朝勤王家芝原又三郎の墓	宮崎県：高千穂町	S 8. 12. 5
16	史跡	陣 内 遺 跡	宮崎県：高千穂町	S51. 3. 26
17	史跡	後 曾 木 古 墳	宮崎県：延岡市北方町	S12. 7. 2
18	史跡	高 畑 赤 立 遺 跡	熊本県：蘇陽町	H10. 3. 11
19	史跡	重 岡 キ リ シ タ ン 墓	大分県：佐伯市宇目町	S34. 3. 20
20	天	アカウミガメ及びその産卵地	宮崎県：延岡市(宮崎市, 日南市)	S55. 6. 24
21	天	福 寿 草 自 生 地	宮崎県：高千穂町	S 8. 12. 5
22	天	白岩山石灰岩峰植物群落	宮崎県：五ヶ瀬町	S17. 6. 23
23	天	浄専寺のシダレザクラ	宮崎県：五ヶ瀬町(浄専寺)	S40. 8. 17
24	天	宇 目 の 野 生 桐	大分県：佐伯市宇目町	S34. 3. 20
25	天	鷹 鳥 屋 山 の 自 然 林	大分県：佐伯市宇目町	S60. 3. 29
26	名勝	那 智 の 滝	宮崎県：延岡市	S12. 7. 2
27	名勝	行 藤 山	宮崎県：延岡市	S32. 12. 15
28	名勝	藤 河 内 溪 谷	大分県：佐伯市宇目町	S34. 3. 20

(凡例) 重文：重要文化財                      重有：重要有形民俗文化財                      無民：無形民俗文化財  
 重無：重要無形民俗文化財              重：重要無形文化財                      有文：有形文化財  
 天：天然記念物

注) 2010年版宮崎県観光要覧(平成22年 4月：宮崎県)より。

## 2-4 自然公園等の指定状況

五ヶ瀬川流域は、自然環境にも恵まれた地域が多く、図2-3～4及び表2-5に示すとおり、自然公園及び鳥獣保護区域が設定されている。



祖母傾国定公園 (鉾岳<sup>ほこだけ</sup>)

出典：パンフレット「北方見聞」(北方町)



九州中央山地国定公園

出典：パンフレット「フォレストピア六峰街道」  
(整備促進期成同窓会)



日豊海岸国定公園

出典：延岡市市勢要覧(延岡市)

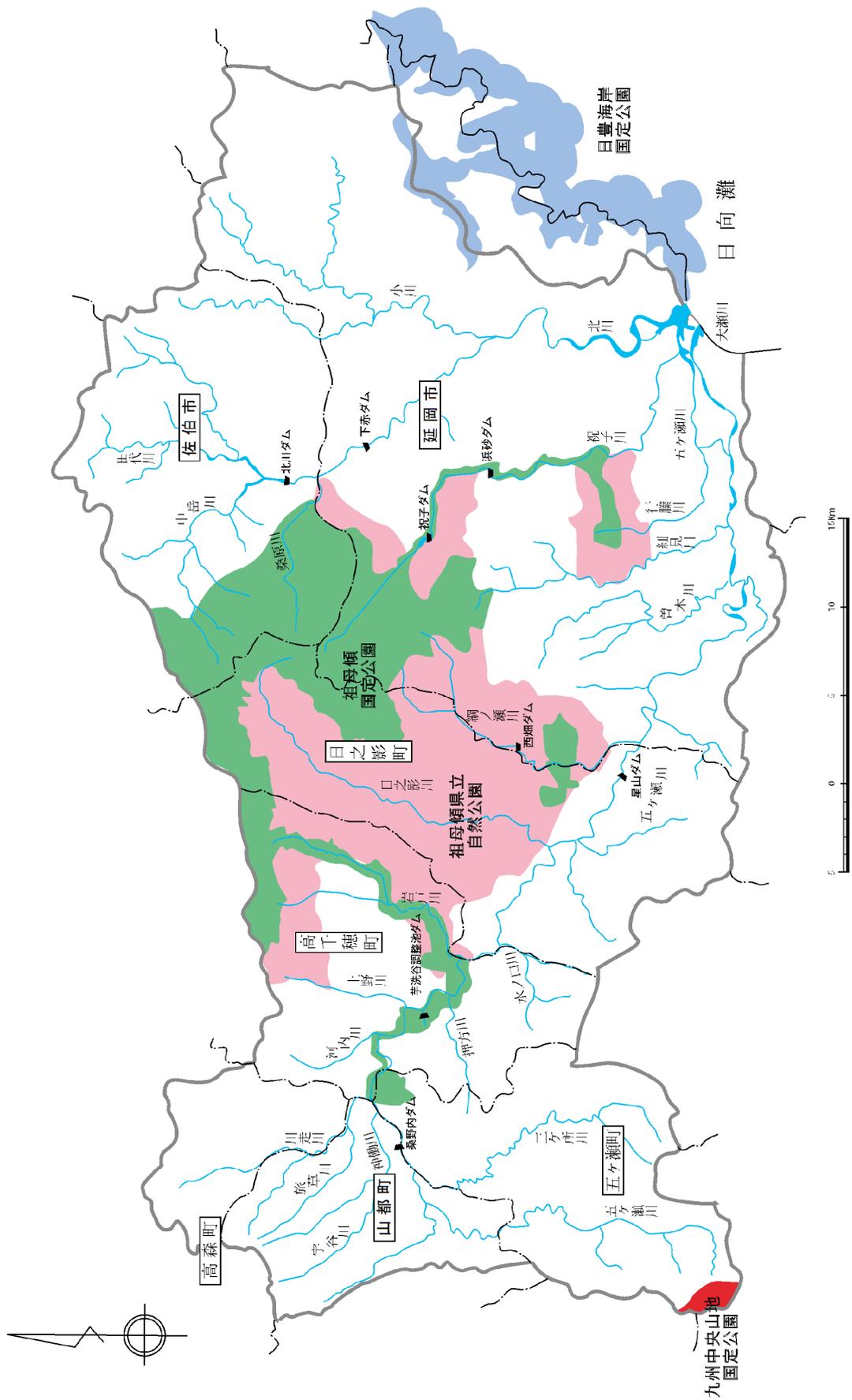


图 2-3 自然公園位置図

表 2 - 5 自然公園

種別	公園名	流域内 関係市町村	指定年月日	備考
国立・国定公園	祖母傾 国定公園	大分県：佐伯市宇目町 宮崎県：延岡市北方町、延岡市 北川町、高千穂町、日之影町、 五ヶ瀬町	昭和 40 年（1965 年） 3 月 25 日指定	未開の自然林、多種多様の動 植物群の分布、神話伝説の発 祥地。
	日豊海岸 国定公園	宮崎県：延岡市北浦町、延岡市 北川町	昭和 49 年（1974 年） 2 月 15 日指定	半島と湾、島嶼、断崖のおり なすリアス式海岸の美。
	九州中央山地 国定公園	宮崎県：五ヶ瀬町	昭和 57 年（1982 年） 5 月 15 日指定	原生林のすぐれた自然景観 と豊かな動植物、歴史的的文化 資源に富む。
県立自然公園	矢部周辺 県立自然公園	熊本県：山都町	昭和 32 年（1957 年） 8 月 3 日 指定 昭和 57 年（1982 年） 5 月 15 日 削除 平成 7 年（1995 年） 7 月 10 日 再検討	多数の自然景観資源。
	祖母傾県立 自然公園	宮崎県：延岡市北方町、延岡市 北川町、高千穂町、日之影町、 五ヶ瀬町	昭和 33 年（1958 年） 9 月 1 日指定	未開の自然林、多種多様の動 植物群の分布、神話伝説の発 祥地。

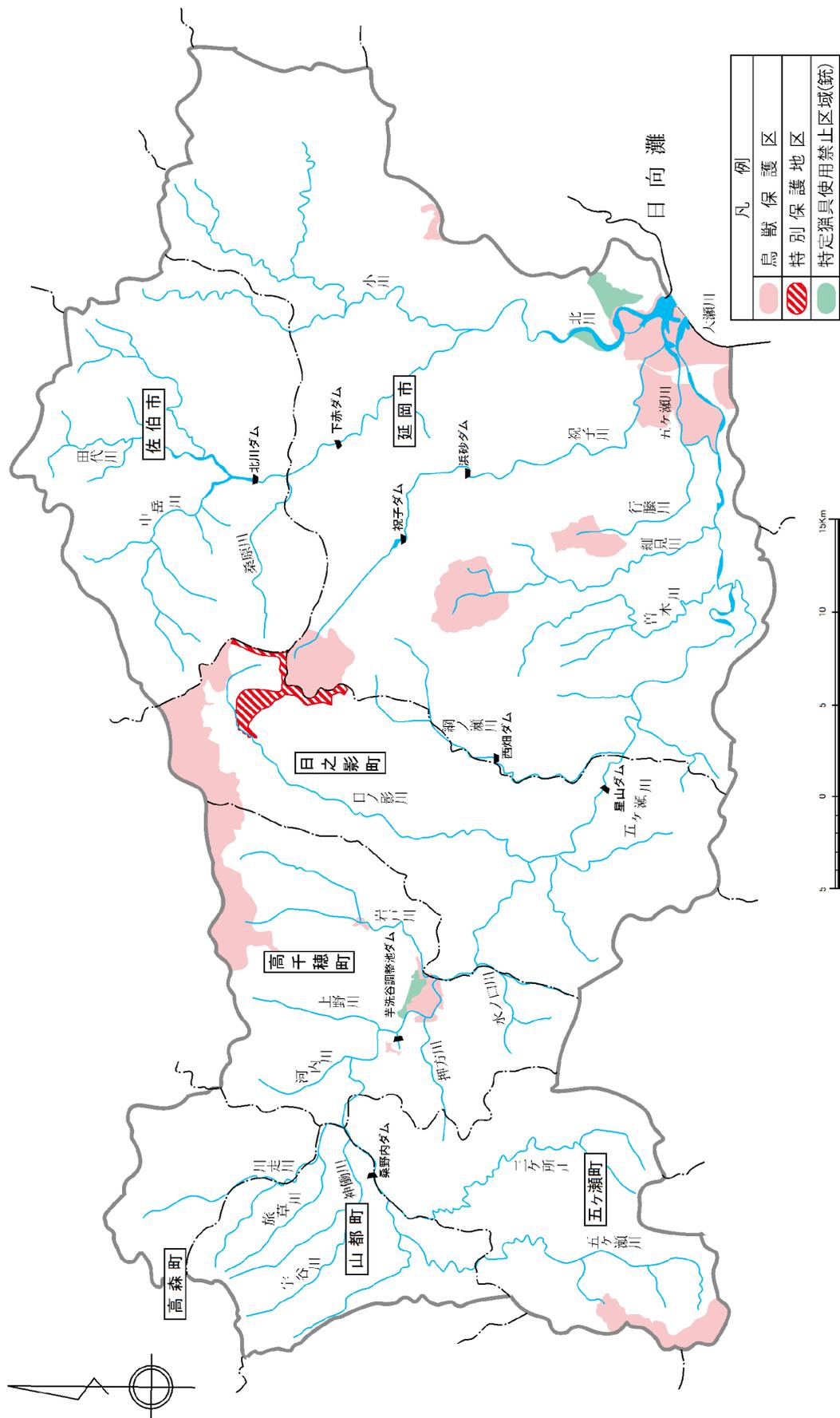


図2-4 鳥獣保護区指定区域図

### 第3章 流域の社会状況

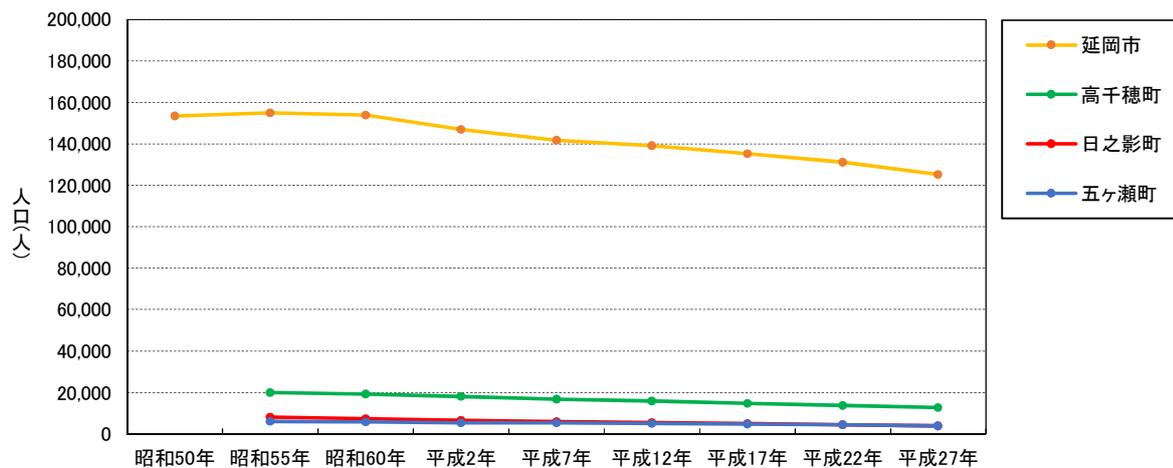
#### 3-1 人口

五ヶ瀬川流域の関係自治体は、延岡市や高千穂町をはじめ2市5町からなり、平成27年（2015年）時点の国勢調査では、流域最大都市の延岡市で人口約12.5万人となっている。

表3-1 五ヶ瀬川流域の人口推移（宮崎県関係市町）

年次 区分	昭和50年 1975年 (人)	昭和55年 1980年 (人)	昭和60年 1985年 (人)	平成2年 1990年 (人)	平成7年 1995年 (人)	平成12年 2000年 (人)	平成17年 2005年 (人)	平成22年 2010年 (人)	平成27年 2015年 (人)
延岡市	153,432	154,881	153,835	146,989	141,751	139,176	135,182	131,182	125,159
高千穂町	—	19,957	19,170	18,093	16,780	15,843	14,778	13,723	12,755
日之影町	—	8,013	7,353	6,550	5,928	5,445	5,031	4,463	3,946
五ヶ瀬町	—	6,034	5,808	5,392	5,265	5,079	4,812	4,427	3,887

出典：「国勢調査」



出典：「国勢調査」

図3-1 五ヶ瀬川流域の人口推移

### 3-2 土地利用

#### 1) 土地利用の現況

流域の土地利用は、山林等が全体の約91%を占め、水田や果樹園等の農地が約7%、宅地等市街地が約2%の割合になっている。

表3-2 土地利用の現況

項目	面積 (km <sup>2</sup> )	全面積に占める割合(%)
流域面積	1,820.0	100%
森林面積	1,655.2	91%
耕地面積(田・畑)	129.9	7%
宅地その他	34.9	2%

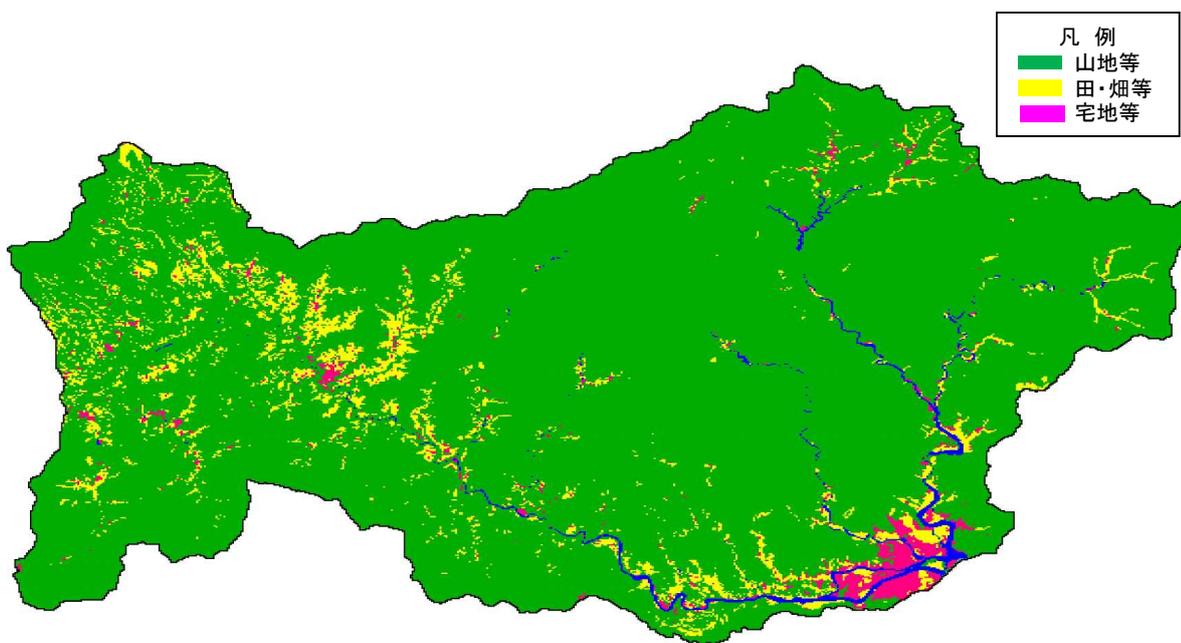


図3-2 五ヶ瀬川流域における土地利用図

出典：国土数値地図 平成28年(2016年)土地利用メッシュデータ

※国土数値地図において、田・その他の農用地・ゴルフ場・その他の用地を田畑等(黄色)として、建物用地・幹線交通用地を宅地等(赤色)として、森林・荒地を森林等(緑色)として整理。

### 3-3 産業・経済

流域内の総資産額は、平成22年（2010年）3月時点で約2兆52億円で、その約半分は家屋資産が占めている。

流域内の産業は、上流域では木材生産及び木製品製造が盛んで、また支川北川上流では窯業用鉍石が採掘されている。一方、下流域では、旭化成（株）を中心とする化学工業が盛んである。

表3-3 流域内資産額（単位：百万円）

家屋資産額	家財資産額	事業所資産額	農漁家資産額	合計
1,040,473 (51.9)	650,807 (32.5)	304,420 (15.2)	9,502 (0.5)	2,005,202 (100.0)

注：（）書きは合計に対する比率

出典：平成22年（2010年）3月第9回河川現況調査

### 3-4 交通

五ヶ瀬川流域の道路は、高規格幹線道路として東九州自動車道が整備されており、九州東部を南北に結ぶ交通の要衝となっている。

また、国道は北九州市から九州の東側を通り、大分県佐伯市、延岡市、宮崎市等を経て鹿児島市へ至る国道 10 号、熊本市を起点とし九州山地を横断し延岡市へ至る国道 218 号等、九州東部の主要な道路が流域内を通過している。

鉄道は、福岡市から北九州市、大分市を経由し、延岡市、鹿児島市を結ぶ JR 日豊本線が流域を縦断している。日豊本線は大分市、延岡市、宮崎市等の主要都市を結ぶ九州東側の幹線鉄道であり、地域の発展に重要な役割を果たしている。また、宮崎県内の地方港湾である延岡港においても物資等の輸送にも大きな役割を果たしている。

また、これからの道路整備として、九州横断自動車道延岡線が現在整備中であり、熊本と延岡を結ぶことで利便性、効率性が向上し、当流域における産業や地域のさらなる発展について、今後大いに期待できるものと考えられる。

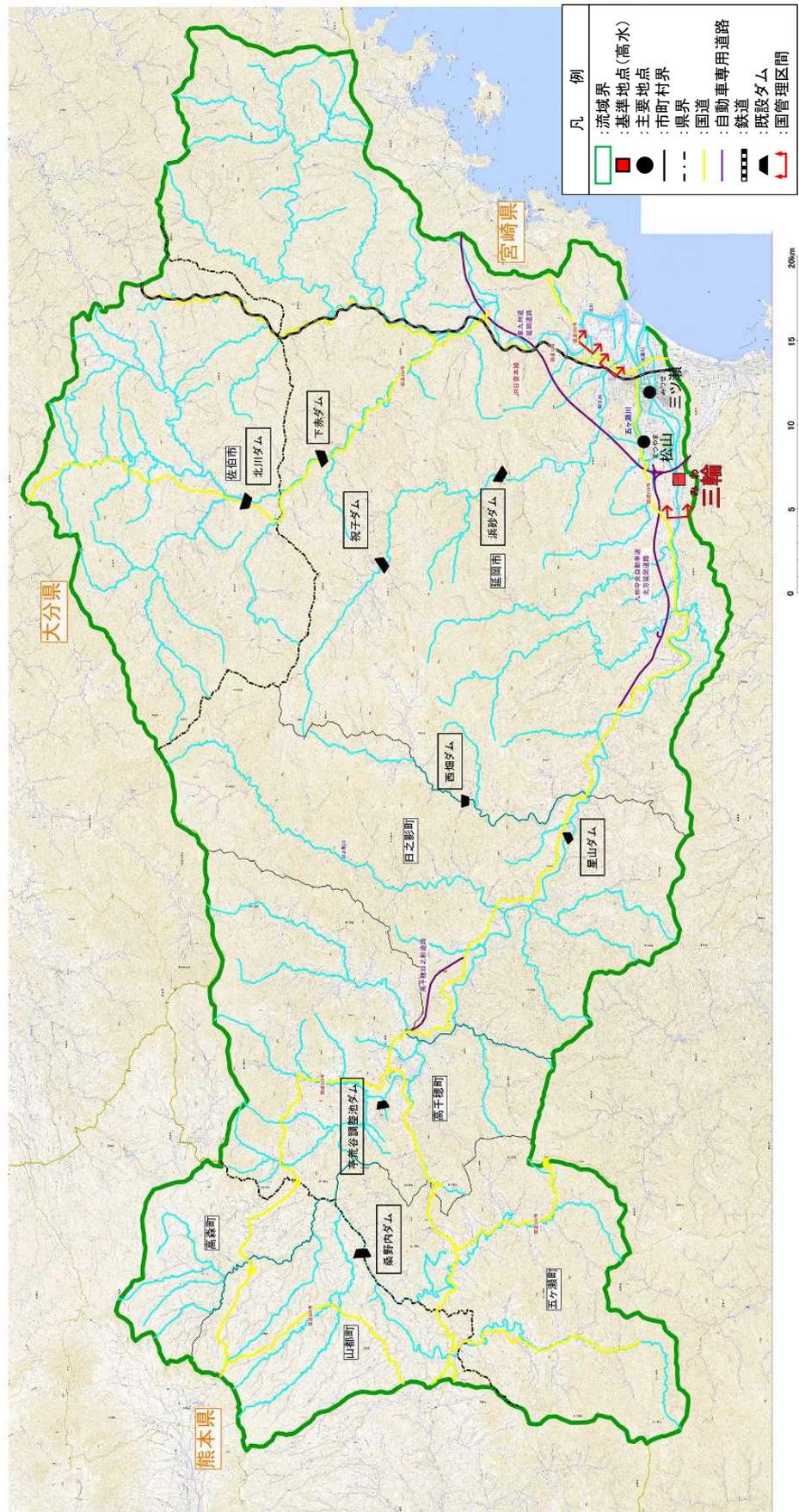


图 3-4 五ヶ瀬川流域交通体系图

## 第4章 水害と治水事業の沿革

### 4-1 既往洪水の概要

五ヶ瀬川流域の年平均降水量は約2,500mmに達し、全国平均より約800mm程度多い多雨地域である。月別の雨量では6～7月の梅雨期に加え8～9月の降雨も多い。これはこの時期に宮崎県を通過する台風に伴う降雨によるものであり、主な洪水全てはこの台風性の降雨により発生している。

主な洪水としては、昭和18年(1943年)9月洪水、昭和29(1954年)9月洪水、昭和46年(1971年)8月洪水、昭和57年(1982年)8月洪水、平成5年(1993年)8月洪水、平成9年(1997年)9月洪水、平成16年(2004年)8月洪水、平成16年(2004年)10月洪水、平成17年(2005年)9月洪水等である。

近年洪水の平成5年(1993年)8月洪水(三輪地点:6,441m<sup>3</sup>/s)、平成9年(1997年)9月洪水(三輪地点:5,953m<sup>3</sup>/s)では、工事実施基本計画で定めた基本高水のピーク流量(三輪地点:6,000m<sup>3</sup>/s)相当もしくはそれを超える洪水が連続して発生し、特に、五ヶ瀬川支川北川においては平成9年(1997年)9月洪水により甚大な被害に見舞われた。さらに平成17年(2005年)9月洪水では、台風14号が九州の西海上を縦断するコースをとったため、台風の東側に位置する五ヶ瀬川流域では、海側から流れこんだ湿った空気の影響もあり五ヶ瀬川中流部の山沿いを中心に猛烈な豪雨をもたらし、9月4日～6日の雨量が上鹿川<sup>かみししがわ</sup>で1,217mm、見立<sup>みたて</sup>で1,025mm、上祝子<sup>かみほうり</sup>で1,097mmの雨量が記録され、五ヶ瀬川・大瀬川の各観測所で軒並み既往最高水位が観測され、岡富地区など5箇所<sup>5箇所</sup>で越水が発生するなど、家屋等の浸水被害(床上浸水1,038戸、床下浸水657戸)、農業・漁業・商工業関係への被害、国道等の交通機能停止、鉄道橋の流失等が発生し、地域社会及び経済に甚大な影響を与えた。

表 4 - 1 五ヶ瀬川の主な洪水

洪水年月日	原因	流量	被害状況
昭和 18 年 9 月 18～20 日	台風 15 号	不明	死者 114 名、行方不明者 1 名、負傷者 161 名 家屋全半壊 1,535 戸、床上浸水 8,435 戸 〔宮崎県内 宮崎県災異誌より〕
昭和 29 年 9 月 10～13 日	台風 12 号	不明	死者 12 名、行方不明者 4 名、負傷者 15 名 家屋全壊 379 戸、家屋半壊 916 戸 床上浸水 3,810 戸、床下浸水 2,421 戸 〔流域内 宮崎県災異誌より〕
昭和 46 年 8 月 27～30 日	台風 23 号	五ヶ瀬川 三輪：5,500m <sup>3</sup> /s 祝子川 佐野：929m <sup>3</sup> /s 北川 熊田：2,544m <sup>3</sup> /s	死者 11 名、負傷者 8 名、家屋全半壊 19 戸 一部損壊 66 戸、床上浸水 295 戸 床下浸水 574 戸 〔流域内 宮崎県災異誌より〕
昭和 57 年 8 月 25～27 日	台風 13 号	五ヶ瀬川 三輪：5,000m <sup>3</sup> /s 祝子川 佐野：747m <sup>3</sup> /s 北川 熊田：2,607m <sup>3</sup> /s	家屋全半壊 7 戸、一部損壊 15 戸、 床上浸水 51 戸、床下浸水 116 戸 〔流域内 宮崎県災異誌より〕
平成 5 年 8 月 8～10 日	台風 7 号	五ヶ瀬川 三輪：6,441m <sup>3</sup> /s 祝子川 佐野：755m <sup>3</sup> /s 北川 熊田：2,220m <sup>3</sup> /s	死者 2 名、負傷者 11 名、家屋全半壊 19 戸 床上浸水 388 戸、床下浸水 508 戸 〔流域内 高水速報より〕
平成 9 年 9 月 13～16 日	台風 19 号	五ヶ瀬川 三輪：5,953m <sup>3</sup> /s 祝子川 佐野：1,091m <sup>3</sup> /s 北川 熊田：5,067m <sup>3</sup> /s	死者 1 名、家屋全半壊 21 戸 床上浸水 1,762 戸、床下浸水 1,217 戸 〔流域内 高水速報より〕
平成 16 年 8 月 29～30 日	台風 16 号	五ヶ瀬川 三輪：6,235m <sup>3</sup> /s 祝子川 佐野：1,038m <sup>3</sup> /s 北川 長井：2,543m <sup>3</sup> /s	死者 1 名、家屋全半壊 34 戸、床上浸水 64 戸 床下浸水 65 戸 〔流域内 高水速報より〕
平成 16 年 10 月 20 日	台風 23 号	北川 長井：4,916m <sup>3</sup> /s	家屋全半壊 4 戸、床上浸水 262 戸 床下浸水 408 戸 〔流域内 高水速報より〕
平成 17 年 9 月 4～6 日	台風 14 号	五ヶ瀬川 三輪：7,858m <sup>3</sup> /s	死者 7 名、家屋全半壊 67 戸、床上浸水 1038 戸 床下浸水 657 戸 〔流域内 高水速報より〕
平成 28 年 9 月 19～20 日	台風 16 号	北川 長井：3,975m <sup>3</sup> /s	床上浸水 22 戸、床下浸水 77 戸 〔流域内 高水速報より〕

<平成5年(1993年)8月10日洪水 台風7号>

①



安賀多橋付近 (大瀬川 3k800)

②



岡富町付近 (五ヶ瀬川 4k100 左岸)

③



小峰地区 (五ヶ瀬川 7k000 左岸)

④



東海町付近 (北川 0k600 左岸)

⑤



昭和町付近 (祝子川 0k200 右岸)



<平成9年(1997年)9月13日~9月16日洪水 台風19号>



① 松山町付近 (五ヶ瀬川 5k800 左岸)



② 北小路町付近 (五ヶ瀬川 3k500 左岸)



③ 東海町付近 (北川 0k200 左岸)



④ 二ツ島町付近



⑤ 北川町 家田付近



⑥ 北川町 熊田橋付近

<平成 16 年 (2004 年) 8 月 30 日洪水 台風 16 号>  
 <平成 16 年 (2004 年) 10 月 20 日洪水 台風 23 号>



① 亀井橋下流  
 (五ヶ瀬川 3k800, 台風 16 号)



② 岡富町地区  
 (五ヶ瀬川 4k400 左岸付近, 台風 16 号)



③ 須崎橋  
 (大瀬川 3k000 右岸, 台風 16 号)



④ 大瀬大橋下流  
 (大瀬川 5k200 右岸, 台風 16 号)



⑤ 昭和町地区  
 (祝子川 0k400 右岸, 台風 23 号)



⑥ 川島橋下流  
 (北川 3k800, 台風 23 号)



<平成17年(2005年)9月4日~9月7日洪水 台風14号>



① 北小路地区 (五ヶ瀬川 3k400 左岸)



④ 小峰地区 (五ヶ瀬川 6k900 左岸)



② 岡富町付近 (五ヶ瀬川 3k000 左岸)



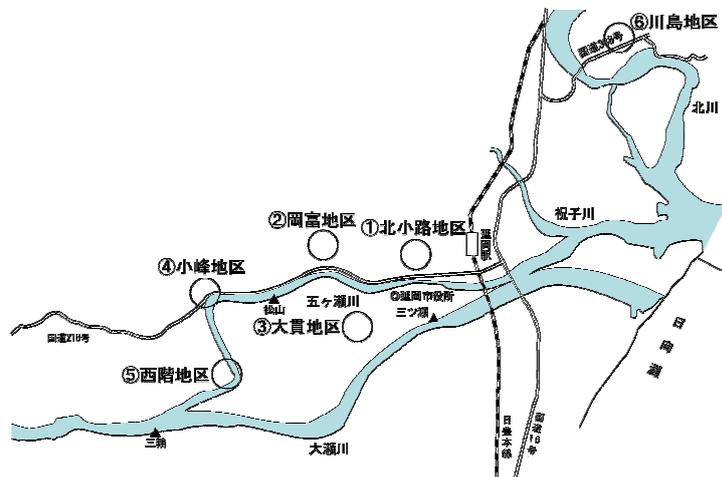
⑤ 西階地区 (五ヶ瀬川 8k400 右岸)



③ 大貫地区 (五ヶ瀬川 4k600 右岸)



⑥ 川島地区 (北川 3k000 左岸)



## 4-2 治水事業の沿革

治水事業としては、明治に入り、河川災害による被害が年々増大してきたため、五ヶ瀬川の河川改修事業を国庫支弁による事とする改修計画が策定され、当時の内務大臣に申請された。その後、大正7年（1918年）7月の洪水では大瀬川右岸堤防（現安賀多橋南岸）が決壊する等、度重なる災害により、大正8年（1919年）9月18日河川法準用河川に編入の告示があったが、事業にはほとんど見るべきものはなかった。

昭和7年度（1932年度）からの中小河川改良工事は、大正7年（1918年）、大正13年（1924年）7月、昭和3年（1928年）8月の台風洪水の痕跡及びピーク流量から五ヶ瀬川計画高水流量を4,500m<sup>3</sup>/s、分流後の五ヶ瀬川を1,500m<sup>3</sup>/s、大瀬川を3,000m<sup>3</sup>/sとした改修が進められた。

昭和18年（1943年）9月の台風15号による大災害を契機として、昭和26年（1951年）5月に直轄事業として河川改修に着手し、計画高水流量は、基準地点三輪において6,000m<sup>3</sup>/sとし、大瀬川に4,500m<sup>3</sup>/sを分派し、分派後の五ヶ瀬川に1,500m<sup>3</sup>/s、更に北川の合流量3,000m<sup>3</sup>/sを合わせ東海から河口において4,500m<sup>3</sup>/sとする計画を策定した。

昭和26年度（1951年度）から、五ヶ瀬川と大瀬川を分派するために、延岡市須崎町と方財町を結ぶ隔流堤に着手し、昭和29年度（1954年度）までに主に隔流堤の基礎工（組梁沈床）を施工するとともに、昭和29年（1954年）9月の大洪水により川中地区、延岡市街地部の引堤工事に着手し、昭和36年度（1961年度）までに川中地区の大半のパラペット堤工事を完了し、これに伴って必要となる安賀多橋の継ぎ足し工事、旭化成揚水機場の移設等が完了した。

昭和37年度（1962年）から改修工事の主眼である隔流堤工事の準備的工事として、浜砂地区の引堤、掘削工事に着手し、昭和39年度（1964年）からは隔流堤工事の一部である鷺島地区の護岸に着手した。

昭和39年（1964年）の河川法の制定を受け、昭和41年（1966年）7月に五ヶ瀬川工事実施基本計画が策定されました。この計画は昭和26年（1951年）の計画と基本的事項の変更はなく、延岡市街部を洪水より防御することを最大の目的とした計画であった。この計画に基づき現在までに、浜砂排水機場、大瀬川引堤及び護岸等の工事を実施した。

一方、河口部では、高潮対策区間として大瀬川河口より 0.8k 付近までの区間を設定し、昭和 44 年（1969 年）に高潮堤防が概成している。

さらに、過去の出水時において漏水が発生した箇所及び、地質条件等から漏水のおそれがある区間については、漏水対策を実施している。

また、平成 9 年（1997 年）9 月の台風 19 号により甚大な被害が発生した五ヶ瀬川支川北川では、宮崎県との合同事業として激甚災害対策特別緊急事業が採択され、事業の実施にあたっては安全のための治水事業と、環境保全の両立を図るため委員会を開催し実施方針についての議論等を実施し環境に配慮した激特事業を行い、国管理区間の事業については平成 13 年度（2001 年度）に、宮崎県管理区間の事業については平成 15 年度（2003 年）に完了した。

平成 9 年（1997 年）の河川法の改正を受け、平成 16 年（2004 年）1 月に基準地点三輪における基本高水のピーク流量を  $7,200\text{m}^3/\text{s}$  とし、分派後の五ヶ瀬川の河道配分流量を  $2,600\text{m}^3/\text{s}$ 、大瀬川の河道配分流量を  $4,600\text{m}^3/\text{s}$  とする五ヶ瀬川水系河川整備基本方針を策定した。

その後、平成 17 年（2005 年）9 月の台風 14 号で基本高水のピーク流量を上回る約  $7,900\text{m}^3/\text{s}$  の洪水が発生し、五ヶ瀬川河川激甚災害対策特別緊急事業として、平成 17 年（2005 年）9 月洪水に対し越水氾濫を防止する目的で、河道掘削、隔流堤などの築堤、内水対策、浸透対策等の河川整備を集中的に実施した。

現在は、平成 20 年（2008 年）2 月に基準地点三輪における河川整備計画の目標流量を  $6,500\text{m}^3/\text{s}$  とし、分派後の五ヶ瀬川の河道配分流量を  $2,100\text{m}^3/\text{s}$ 、大瀬川の河道配分流量を  $4,400\text{m}^3/\text{s}$  とする五ヶ瀬川水系河川整備計画（国管理区間）を策定し、河川事業を進めている。

## 第5章 水利用の現状

### 5-1 水利用の変遷と現状

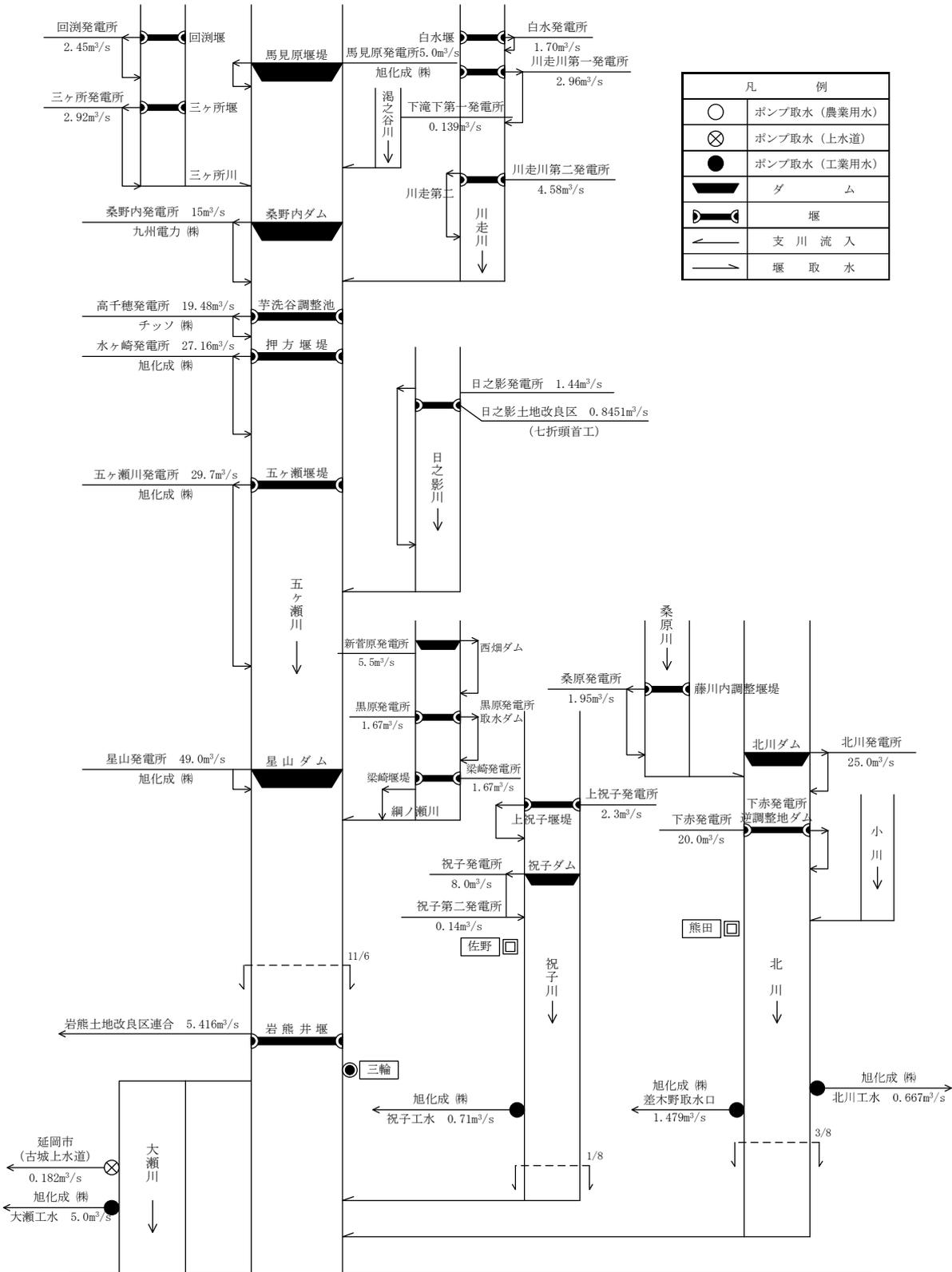
五ヶ瀬川の水利用の歴史は古く、大正時代から電力量拡大のための発電所建設が行われてきており、現在では23発電所で最大約240m<sup>3</sup>/sが発電用水として利用されている。

五ヶ瀬川流域全体の農業用水としては、約2,200haに及ぶ耕地のかんがい利用されている。特に、大瀬川右岸のかんがい用水は、基準地点三輪上流に位置する岩熊井堰から取水されており、五ヶ瀬川の農業用水水利使用の中で大規模かつ重要な取水となっている。

工業用水としては、五ヶ瀬川流域全体で約6.4m<sup>3</sup>/sの水利権量があり、このうち5m<sup>3</sup>/sは大瀬川から取水されている。また、水道用水としての利用はわずかである。

表5-1 五ヶ瀬川流域の水利権（許可・慣行）

種別	水利権	備考
農業用水	2,156.25ha	慣行：361井堰、 許可：岩熊井堰、七折頭首工、栗野名頭首工
水道用水	0.182m <sup>3</sup> /s	延岡市
発電用水	最大239.759m <sup>3</sup> /s	23発電所
工業用水	6.377m <sup>3</sup> /s	旭化成（株）



日向灘

図5-1 五ヶ瀬川水利現況模式図

## 5-2 渇水被害の概要

流量の観測基準点である三輪地点（流域面積 1,044.1 km<sup>2</sup>）の平成 21 年（2009 年）から令和元年（2019 年）までの近年 10 年間の平均渇水流量は 19.16m<sup>3</sup>/s であり、近年において渇水被害は発生していない。また、聞き取り調査結果においても、五ヶ瀬川流域内で渇水被害に関する記録はないことが判明している。

## 第6章 河川の流況と水質

### 6-1 河川流況

三輪地点（図6-1参照）における過去50年間<sup>(※)</sup>の流況は、平均低水流量が23.6m<sup>3</sup>/s、平均濁水流量が16.4m<sup>3</sup>/sである。また、過去50年間の最小低水流量は15.2m<sup>3</sup>/s、最小濁水流量は6.9m<sup>3</sup>/sである。

<sup>(※)</sup>昭和30年(1955年)～令和元年(2019年)(昭和40年(1965年)、平成12年(2000年)、平成19年(2007年)は欠測、昭和59年(1984年)～平成7年(1995年)は棄却)

表6-1 五ヶ瀬川水系三輪地点流況表(CA=1,044.1km<sup>2</sup>)

No	西暦	和暦	日最大 (m <sup>3</sup> /s)	豊水 (m <sup>3</sup> /s)	平水 (m <sup>3</sup> /s)	低水 (m <sup>3</sup> /s)	濁水 (m <sup>3</sup> /s)	日最小 (o3/s)	年平均 (m <sup>3</sup> /s)	
1	1955	昭和 30 年	553.00	51.80	30.00	19.90	14.50	12.40	47.20	
2	1956	昭和 31 年	931.00	57.10	35.50	25.80	14.20	12.50	56.70	
3	1957	昭和 32 年	1,830.00	65.00	35.70	27.90	17.00	13.60	73.20	
4	1958	昭和 33 年	② 243.00	41.60	31.20	24.00	13.60	11.80	43.90	
5	1959	昭和 34 年	2,500.00	53.90	36.70	29.60	21.20	18.40	72.50	
6	1960	昭和 35 年	855.90	65.30	26.80	19.70	13.80	12.20	55.50	
7	1961	昭和 36 年	2,336.50	89.20	50.40	28.60	13.80	9.40	98.80	
8	1962	昭和 37 年	1,333.60	75.80	38.50	21.40	15.70	12.50	80.70	
9	1963	昭和 38 年	956.50	67.20	38.10	26.00	14.20	12.00	64.80	
10	1964	昭和 39 年	1,486.10	45.50	33.70	25.90	19.70	16.70	58.90	
11	1965	昭和 40 年	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	
12	1966	昭和 41 年	1,624.07	77.76	44.11	28.43	18.64	15.60	91.99	
13	1967	昭和 42 年	④ 388.00	③ 34.07	① 19.61	② 15.19	④ 11.09	9.19	33.09	
14	1968	昭和 43 年	931.82	④ 37.88	② 20.55	① 15.18	11.24	④ 8.57	44.88	
15	1969	昭和 44 年	843.20	② 34.06	25.34	19.70	14.88	12.47	43.56	
16	1970	昭和 45 年	2,090.17	73.70	37.47	22.36	14.58	13.76	81.52	
17	1971	昭和 46 年	3,563.75	64.44	29.61	18.86	11.91	③ 8.43	87.76	
18	1972	昭和 47 年	1,746.60	63.80	41.26	25.27	13.81	② 6.84	74.68	
19	1973	昭和 48 年	811.95	44.88	32.30	24.36	17.30	13.95	45.84	
20	1974	昭和 49 年	1,437.03	44.41	③ 24.38	17.70	13.34	10.30	48.76	
21	1975	昭和 50 年	616.98	70.42	41.31	33.17	23.94	19.02	63.24	
22	1976	昭和 51 年	1,402.33	62.49	41.81	30.28	19.47	17.94	69.63	
23	1977	昭和 52 年	880.19	59.84	35.30	21.77	18.03	15.43	61.75	
24	1978	昭和 53 年	854.94	40.30	26.16	20.46	14.92	13.52	52.01	
25	1979	昭和 54 年	865.07	60.24	39.29	26.51	14.70	13.47	64.58	
26	1980	昭和 55 年	2,331.93	90.38	51.97	33.63	24.38	21.84	87.92	
27	1981	昭和 56 年	956.47	47.32	32.62	24.82	17.56	14.06	45.64	
28	1982	昭和 57 年	3,137.77	56.26	31.72	18.44	12.53	11.25	81.94	
29	1983	昭和 58 年	⑤ 536.35	56.32	31.76	18.58	③ 10.51	9.98	51.31	
30	1996	平成 8 年	1,221.11	42.04	④ 24.74	③ 15.91	② 9.93	⑤ 8.61	49.44	
31	1997	平成 9 年	3,038.03	45.57	⑤ 24.77	⑤ 16.39	① 6.92	① 4.09	59.94	
32	1998	平成 10 年	925.93	63.84	40.65	26.91	17.91	14.46	66.14	
33	1999	平成 11 年	2,260.68	60.04	33.80	17.81	⑤ 11.21	11.21	101.97	
34	2000	平成 12 年	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	欠測	
35	2001	平成 13 年	601.53	45.50	30.67	25.79	20.66	18.50	46.34	
36	2002	平成 14 年	1,661.17	41.65	25.29	20.52	17.34	15.27	58.61	
37	2003	平成 15 年	1,857.23	77.16	43.33	30.23	18.89	17.79	80.05	
38	2004	平成 16 年	3,116.16	70.87	35.73	24.05	19.85	18.66	97.49	
39	2005	平成 17 年	5,249.04	① 32.59	25.76	19.11	13.71	12.10	52.85	
40	2006	平成 18 年	1,507.13	57.11	30.46	21.79	15.25	13.85	欠測	
41	2007	平成 19 年	2,686.82	欠測	欠測	欠測	欠測	12.52	欠測	
42	2008	平成 20 年	587.21	57.33	35.47	26.79	19.06	17.77	60.67	
43	2009	平成 21 年	① 217.88	⑤ 39.31	25.53	20.12	15.70	14.74	35.09	
44	2010	平成 22 年	③ 364.42	59.60	32.15	20.20	16.62	15.34	54.71	
45	2011	平成 23 年	1,654.43	75.95	34.56	④ 16.31	11.74	10.92	77.29	
46	2012	平成 24 年	1,214.07	87.10	41.79	28.40	20.32	18.98	87.89	
47	2013	平成 25 年	781.37	44.20	30.46	25.16	17.86	15.69	49.53	
48	2014	平成 26 年	1,469.74	57.87	33.54	26.69	20.78	19.29	70.18	
49	2015	平成 27 年	839.27	64.12	36.77	29.56	21.54	19.56	65.31	
50	2016	平成 28 年	1,357.99	65.23	40.33	29.22	24.72	22.78	68.77	
51	2017	平成 29 年	1,550.78	55.62	33.24	25.67	20.36	14.52	59.64	
52	2018	平成 30 年	1,552.44	66.28	36.36	26.24	19.48	18.45	86.75	
53	2019	令和 元年	667.09	70.81	31.86	23.38	18.14	17.19	70.03	
近年10ヶ年 (H21～R元)			最大	1,654.43	87.10	41.79	29.56	24.72	22.78	87.89
			最小	364.42	44.20	30.46	16.31	11.74	10.92	49.53
			平均	1,145.16	64.68	35.11	25.08	19.16	17.27	69.01
近年20ヶ年 (H10～R元)			最大	5,249.04	87.10	43.33	30.23	24.72	22.78	101.97
			最小	217.88	32.59	25.29	16.31	11.21	10.92	35.09
			平均	1,471.78	59.61	33.89	24.20	18.06	16.35	67.86
近年30ヶ年 (S51～R元)			最大	5,249.04	90.38	51.97	33.63	24.72	22.78	101.97
			最小	217.88	32.59	24.74	15.91	6.92	4.09	35.09
			平均	1,488.66	58.43	33.93	23.69	17.00	15.24	65.98
近年40ヶ年 (S41～R元)			最大	5,249.04	90.38	51.97	33.63	24.72	22.78	101.97
			最小	217.88	32.59	19.61	15.18	6.92	4.09	33.09
			平均	1,467.83	57.46	33.35	23.27	16.52	14.38	64.84
全資料 (S30～R元)			最大	5,249.04	90.38	51.97	33.63	24.72	22.78	101.97
			最小	217.88	32.59	19.61	15.18	6.92	4.09	33.09
			平均	1,434.78	58.22	33.81	23.60	16.37	14.14	64.92
W=1/10 (S30～R元:5位/50ヶ年)				536.35	39.31	24.77	16.39	11.21	8.61	44.88

※ S59～H7年は棄却

※ ○数字は小さい順位を示す

## 6-2 河川水質

### 1) 環境基準

五ヶ瀬川水系における水質汚濁に係る環境基準の類型指定は表6-2、図6-1に示すとおりである。

表6-2 五ヶ瀬川環境基準類型指定状況（宮崎県知事告示）

水 系		該当 類型	達成 期間	当初の指定年月日 又は 最終見直し年月日	
五 ヶ 瀬 川 水 系	北川	(川島橋より上流に流入する小川。大内多谷川等の河川を含む。)	A	イ	平成16年4月1日
	祝子川上流	(桑平橋より上流。祝子川の上流に流入する松山谷川等の河川を含む。)	AA	イ	昭和58年6月1日
	祝子川下流	(桑平橋より下流)	A	イ	平成16年4月1日
	五ヶ瀬川上流	(亀井橋より上流)	A	イ	昭和52年2月25日
	五ヶ瀬川下流	(亀井橋より下流)	A	イ	平成16年4月1日
	大瀬川上流	(大瀬橋より上流)	A	イ	昭和52年2月25日
	大瀬川下流	(大瀬橋より下流)	A	イ	昭和45年9月1日
	三ヶ所川	(五ヶ瀬川合流地点まで。三ヶ所川に流入する小谷川等の河川を含む。)	A	イ	平成4年4月1日
	綱の瀬川	(五ヶ瀬川合流地点まで。綱の瀬川に流入する猪の内谷川等の河川を含む。)	AA	イ	
	曾木川	(五ヶ瀬川合流地点まで。曾木川に流入する大保下川等の河川を含む。)	AA	イ	
	細見川	(細見川に流入する西の小谷川等の河川を含む。)	AA	イ	平成5年4月1日
日之影川	(日之影川に流入する河川を含む。)	AA	イ	平成7年4月1日	

注) AA : BOD 濃度 1 mg/l 以下

イ : 直ちに達成

A : BOD 濃度 2 mg/l 以下

ロ : 5年以内で可及的速やかに達成

B : BOD 濃度 3 mg/l 以下

ハ : 5年を超える期間で可及的速やかに達成

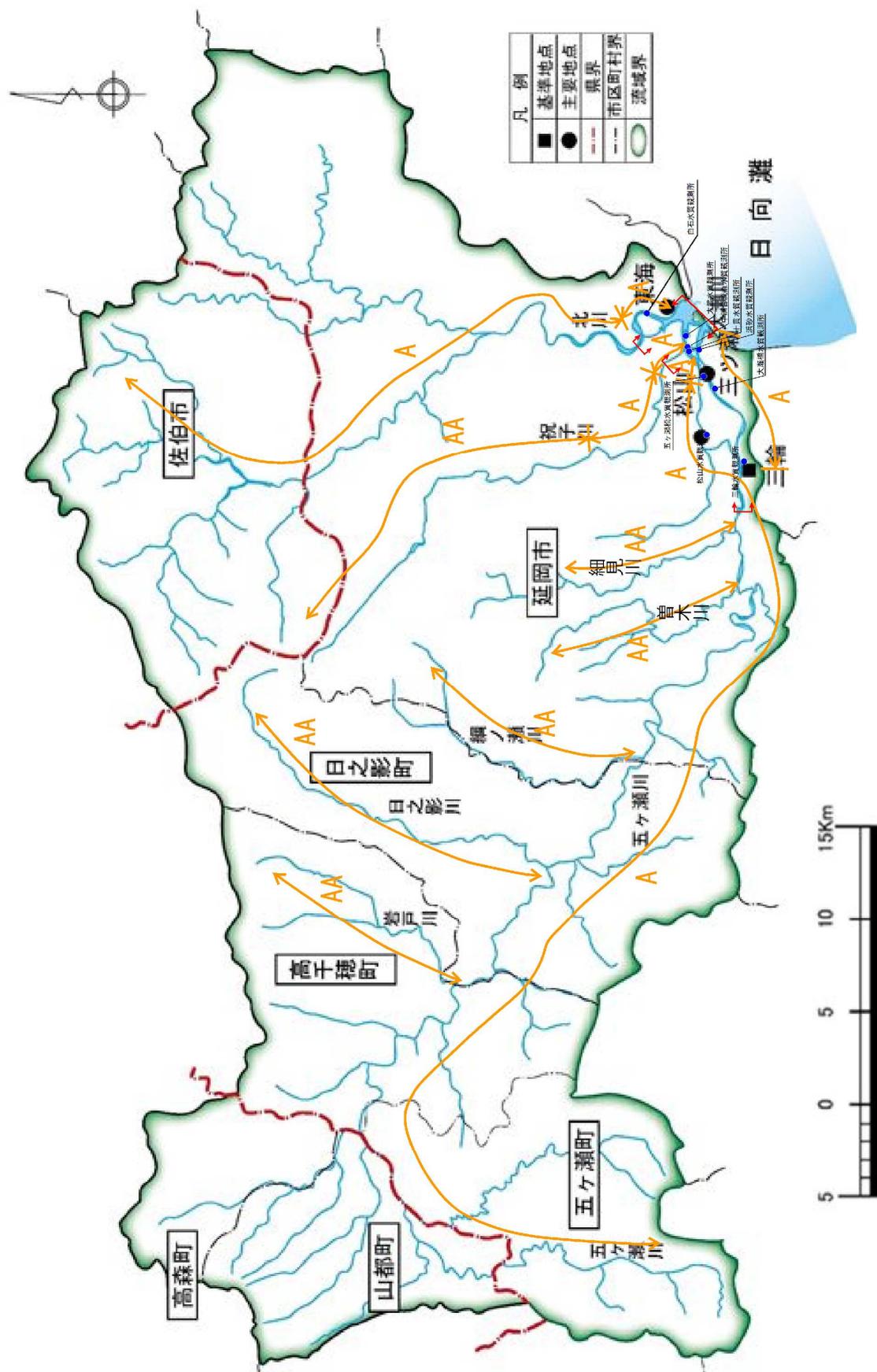


图 6-1 環境基準類型指定状況図



## 第7章 河川空間の利用状況

### 7-1 河川の利用状況

#### 1) 上流部

五ヶ瀬川上流部は、蘇陽峡<sup>そようきょう</sup>や高千穂峡などの溪谷や滝、清流などすぐれた景勝地が点在し、多くの観光客を集めている。また、それらの景勝地の周囲にはキャンプ場やレジャー施設が整備され、気候のよい時期は行楽客や登山客などで賑わっている。

宮崎県の日之影町や、五ヶ瀬川最上流域にあたる熊本県山都町では、河川に係わるイベント（日之影町：ハンスハンター溪流フェスティバル、山都町：蘇陽峡もみじ祭等）を地元観光協会等が企画するなど、豊かな自然を活用した観光に力を注いでいる。

#### 2) 中流部

延岡市北川町にかかる中流部は、河川の瀬や淵が多いため良好な釣り場となり、全国からアユやヤマメの溪流釣り場として人気の高い地域である。また、五ヶ瀬川で行われる鮎やなのうち、最も上流に架けられる「川水流やな<sup>かわずる</sup>」は、巨大なアユが獲れることで有名である。

支川綱ノ瀬川<sup>つなのせがわ</sup>の上流に位置する鹿川<sup>ししがわ</sup>キャンプ場は、流域内で最も早くキャンプ場開きが行われ、付近を流れる鹿川溪谷ともに新緑の季節から紅葉の秋まで多くの観光客で賑わっている。

#### 3) 下流部

水面はアユ釣りやカヌー、高水敷はスポーツや散策、イベント会場として多様に活用されている。2月には五ヶ瀬川での「延岡花物語」、8月には、大瀬川で「まつりのべおか」が盛大に催され、多くの市民・観光客で賑わいをみせている。また、延岡市は、マラソン等の陸上競技が盛んな町であり、まちづくりの一環として「アスリートタウン構想」を掲げ、堤防天端及び高水敷はジョギングコースとして整備、利用されている。加えて、10月初旬から11月末の秋の五ヶ瀬川では、九州最大の規模を誇る鮎やなが設けられ、やな場でアユを焼くかおりが河原を漂い、広く市民に浸透した秋の風物詩となっており、五ヶ瀬川特有の重要な観光資源となっている。また、平成30年（2018年）には食の拠点となる「かわまち交流館」のオープンや水辺を活かしたイベントも多数開催されるなど、新たな魅力ある水辺空間での利活用が広く展開されている（令和2年度（2020年度）「かわまち大賞」受賞）。

また、延岡市のお盆の行事として、明治時代から伝わる精霊流し「流れ灌頂<sup>かんじょう</sup>」が行われるなど、延岡市と五ヶ瀬川の繋がりは日常的かつ歴史的にも強いものとなっている。



五ヶ瀬川の「延岡花物語」



大瀬川の「鮎やな」



五ヶ瀬川の精霊流し「流れ灌頂」

## 7-2 河川敷の利用状況

五ヶ瀬川水系(直轄管理区間)における河川空間の公園・グラウンドの整備状況を表7-1に示す。

表7-1 河川空間の公園・グラウンド

### 公園(運動場含む)

河川名	No.	距離標 (km)	左右岸	施設名	種類	施設面積 (㎡)	管理者名
五ヶ瀬川	1	3k090	右岸	船倉街区公園(船倉緑地公園)	緑地公園	16.57	延岡市
五ヶ瀬川	2	4k600~7k800	左岸	第一五ヶ瀬川市民緑地(岡富・南方地区)	緑地公園、一部運動場	64,212.43	延岡市
五ヶ瀬川大瀬川	3	5k8750~9k000 大8k000~8k200	五右岸 大左岸	第一五ヶ瀬川市民緑地(五ヶ瀬川分流公園)	緑地公園	7,720.24	延岡市
大瀬川	4	4k100	左岸	市民緑地公園(大貫緑地)	緑地公園	1,246.04	延岡市
大瀬川	5	4k900~5k200	左岸	第一五ヶ瀬川市民緑地(下大貫地区)	緑地公園、運動場	9,807.84	延岡市
大瀬川	6	6k500~6k960	左岸	第二五ヶ瀬川市民緑地(上大貫地区)	緑地公園、運動場	20,206.14	延岡市
大瀬川	7	7k780~8k000	右岸	第一五ヶ瀬川市民緑地(三須地区)	緑地公園	15,548.00	延岡市
祝子川	8	0k600~0k800	左岸	市民緑地公園(粟野名地区)	緑地公園	3,062.86	延岡市
祝子川	9	1k200~1k400	右岸	市民緑地公園(中ノ瀬地区)	緑地公園	875.00	延岡市
北川	10	1k920~2k400	右岸	第二五ヶ瀬川市民緑地(二ツ島地区)	緑地公園、運動場	40,689.03	延岡市
北川	11	3k000~3k100	左岸	第二五ヶ瀬川市民緑地(川島地区)	緑地公園	4,425.04	延岡市
友内川	12	1k200	右岸	市民緑地公園(無鹿地区)	緑地公園	3,964.84	延岡市

### ゴルフ場

河川名	No.	距離標 (km)	左右岸	施設名	種類	施設面積 (㎡)	管理者名
大瀬川	1	5k950~6k500	左岸	大貫リバーサイドゴルフ練習場	ゴルフ練習場	39,948.42	民間

### 遊歩道

河川名	No.	距離標 (km)	左右岸	施設名	種類	施設面積 (㎡)	管理者名
五ヶ瀬川	1	4k600~7k800	右岸	-	回遊散策路	-	-
大瀬川	2	4k200~8k800	左岸	-	回遊散策路	-	-
友内川	3	-	左岸	友内川観察路	自然観察路	-	国
友内川	4	-	右岸	友内川観察路	自然観察路	-	国

### 駐車場

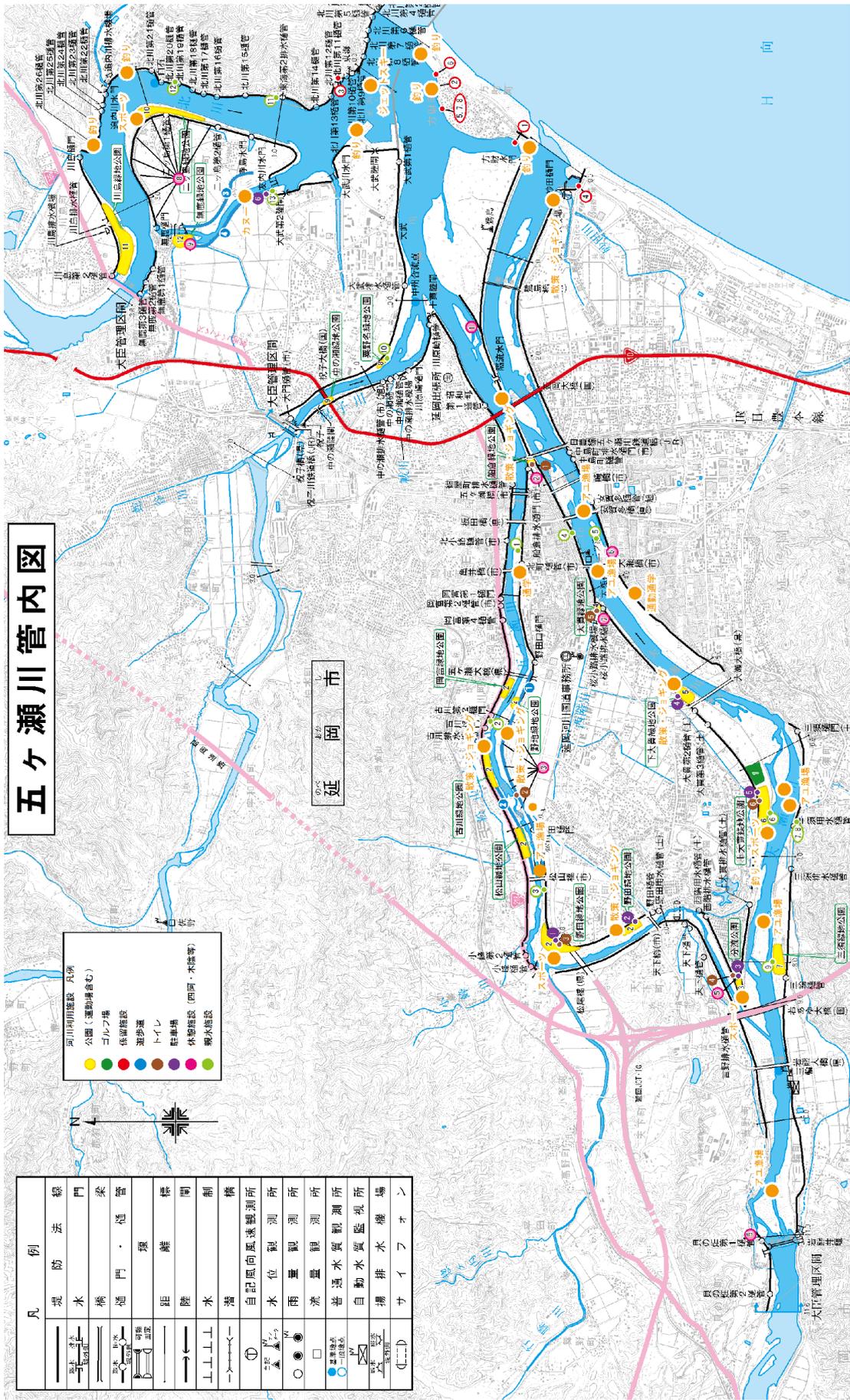
河川名	No.	距離標 (km)	左右岸	施設名	種類	施設面積 (㎡)	管理者名
五ヶ瀬川	1	7k000	右岸	小峰駐車場	駐車場	-	延岡市
五ヶ瀬川	2	7k600	右岸	天下駐車場	駐車場	-	延岡市
五ヶ瀬川	3	8k800	右岸	分流公園駐車場	駐車場	7,720.24	延岡市
大瀬川	4	4k900~5k200	左岸	第一五ヶ瀬川市民緑地(下大貫地区)	緑地公園、運動場	9,807.84	延岡市
大瀬川	5	6k500~6k960	左岸	第一五ヶ瀬川市民緑地(上大貫地区)	駐車場	20,206.14	延岡市
友内川	6	0k450	右岸	駐車場	駐車場	-	国

### 休憩施設(四阿・木陰等)

河川名	No.	距離標 (km)	左右岸	施設名	種類	施設面積 (㎡)	管理者名
五ヶ瀬川	1	1k600	右岸	-	木陰	-	延岡市
五ヶ瀬川	2	3k090	右岸	船倉街区公園(船倉緑地公園)	四阿	-	延岡市
五ヶ瀬川	3	5k000~5k800	右岸	木陰・ベンチ(200mビッチ)	木陰	-	国
五ヶ瀬川	4	8k800	右岸	第一五ヶ瀬川市民緑地(五ヶ瀬川分流公園)	四阿	-	延岡市
五ヶ瀬川	5	11k100	左岸	木陰	木陰	-	-
大瀬川	6	3k600	右岸	木陰	木陰	-	延岡市
大瀬川	7	4k100	左岸	市民緑地公園(大貫緑地)	四阿	-	延岡市
北川	8	1k400~3k200	右岸	木陰(200mビッチ)	木陰	-	国
友内川	9	1k200~1k300	右岸	市民緑地公園(無鹿地区)	木陰	-	延岡市

### 親水施設

河川名	No.	距離標 (km)	左右岸	施設名	種類	施設面積 (㎡)	管理者名
五ヶ瀬川	1	3k500, 3k700	右岸	カヌー・船発着場	船発着場	-	-
大瀬川	2	3k400	左岸	カヌー・船発着場	船発着場	-	-
大瀬川	3	3k500	右岸	カヌー・船発着場	船発着場	-	-
五ヶ瀬川	4	5k100	左岸	カヌー・船発着場	船発着場	-	-
大瀬川	5	5k400	右岸	スロープ	親水施設	-	-
五ヶ瀬川	6	6k600	左岸	カヌー・船発着場	船発着場	-	-
大瀬川	7	6k700	左岸	カヌー・船発着場	船発着場	-	-
大瀬川	8	6k400~6k800	右岸	スロープ	親水施設	-	-
大瀬川	9	8k000	右岸	スロープ	親水施設	-	-
祝子川	10	0k400~1k000	左岸	親水護岸	階段護岸	-	-
北川	11	1k000	左岸	スロープ	親水施設	-	-
北川	12	1k600	左岸	スロープ	親水施設	-	-
友内川	13	0k450	右岸	カヌー・船発着場	船発着場	-	-



五ヶ瀬川管内図

- 河川利用施設 凡例
- 公園 (運動場含む)
- ゴルフ場
- 係留施設
- 遊歩道
- トイレ
- 駐車場
- 休憩施設 (四角・水塔等)
- 観水施設

凡例	図例
堤防	——
水門	—— ——
梁	—— —— ——
管	—— —— —— ——
橋	—— —— —— —— ——
樋門	—— —— —— —— —— ——
堰	—— —— —— —— —— —— ——
水	—— —— —— —— —— —— —— ——
溝	—— —— —— —— —— —— —— —— ——
自記風向風速観測所	①
水位観測所	▲
雨量観測所	●
流量観測所	○
普通水質観測所	□
自動水質監視所	■
揚排水機場	▲
サイフォン	⊃
ポンプ	⊂

図7-1 五ヶ瀬川高水敷利用位置図

## 第8章 河道特性

五ヶ瀬川は、その源を宮崎県と熊本県の県境にそびえる向坂山（標高1,684m）に発し、多くの溪流を合わせつつ高千穂溪谷を流下し、更に岩戸川、日之影川、綱ノ瀬川等の支流を合わせ延岡平野に入る。その後、三輪において大瀬川を分派後、延岡市街地を貫流し河口付近にて祝子川、北川を合わせ、日向灘に注ぐ、幹川流路延長106km、流域面積1,820km<sup>2</sup> の一級河川である。

河床勾配は、上流部では約1/30程度、中流部では約1/100～1/450程度、下流部では約1/1,000程度となっている。

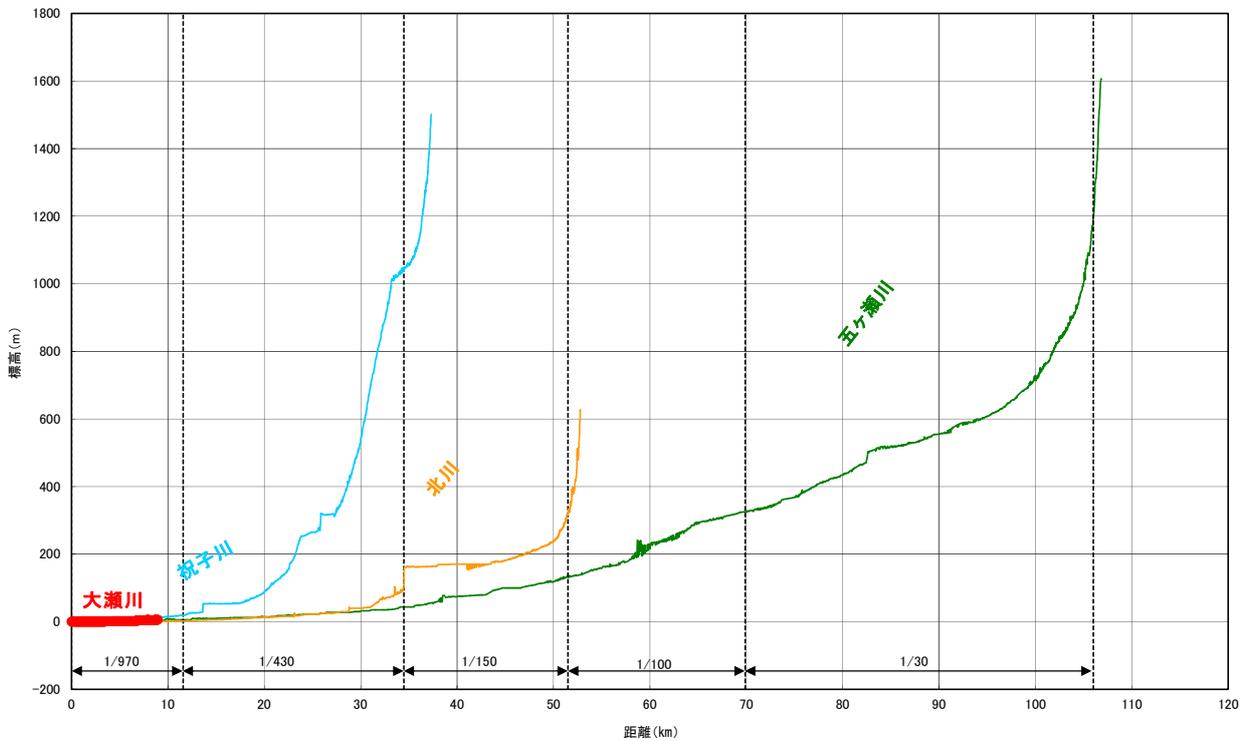


図8-1 五ヶ瀬川の河床勾配（最深河床高）

## 第9章 河川管理の現状

### 9-1 河川管理区間

五ヶ瀬川は、幹川流路延長106kmの一級河川であり、以下の区間を国が管理している。

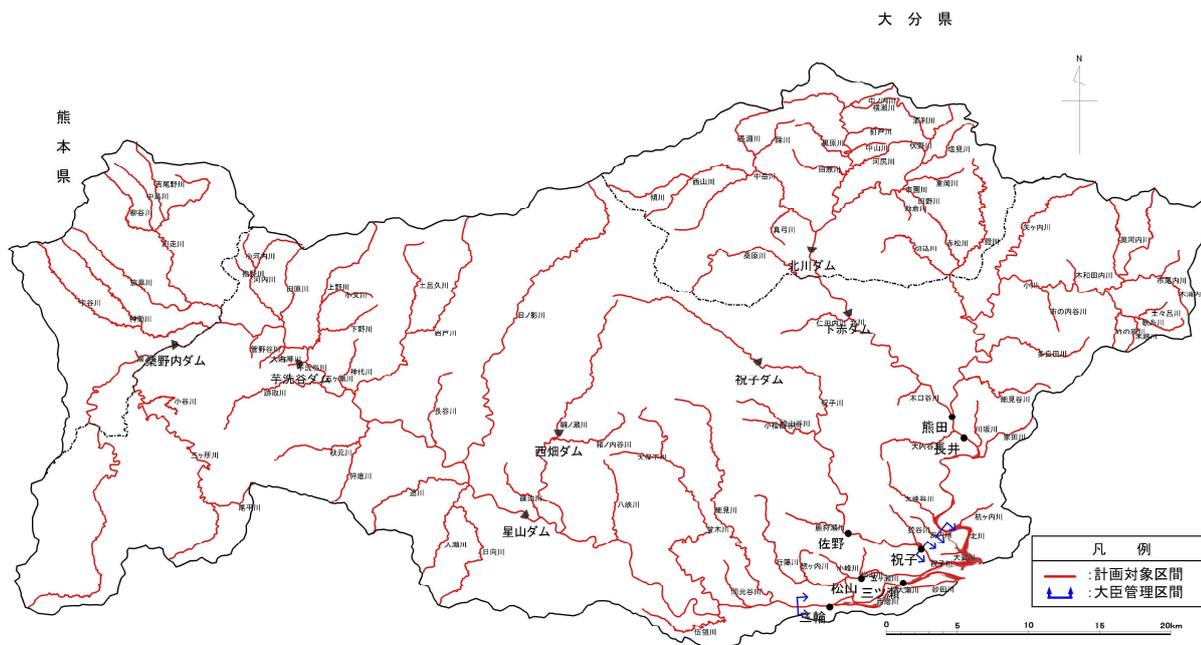


図9-1 五ヶ瀬川水系の国管理区間

表9-1 五ヶ瀬川水系の国管理区間

河川名	上流端	下流端	区間延長 (km)
五ヶ瀬川	左岸 延岡市貝の畑町2413番の1地先 右岸 延岡市下三輪町1661番の25地先	河口まで	13.1
北川	延岡市川島町3518番の2地先の川島橋下流端	五ヶ瀬川への合流点	4.1
祝子川	延岡市榎山町7番の1地先の祝子橋	五ヶ瀬川への合流点	1.7
大瀬川	五ヶ瀬川からの分流点	河口まで	7.9
友内川	北川からの分流点	北川への合流点	1.7
計			28.5

## 9-2 河川管理施設

堤防や護岸は、経年的な老朽化や不同沈下、降雨・浸透・洪水・地震等の自然現象、車両乗り入れ等人為的な影響を受けることにより、変形やクラック等が発生し、放置すると洪水時の変状拡大や大規模な損傷、延いては堤防決壊等に繋がる恐れがある。また水の浸透等によって、クラックや堤体土質のゆるみの進行に繋がり、堤防の弱体化をまねく恐れがあり、五ヶ瀬川では、これまでも堤防の変状や漏水が確認されるとともに、護岸の老朽化も進んでおり、適切な維持管理が必要且つ重要である。

また、五ヶ瀬川では国が管理する樋門・樋管、排水機場など「49」の施設があり、これらの施設は、昭和40年（1965年）～昭和50年（1975年）代に築造されたものが多い状況であり、洪水、津波、高潮等に対して、これら施設が本来の機能が発揮され、円滑な施設操作が図られるよう、平常時から巡視・点検等を行い適正な管理に努めるとともに、ライフサイクルコストの縮減も検討し長寿命化に繋がるよう計画的に補修や、効率化・高度化のための技術開発等にも取り組み、各施設の適切な機能維持を図っていくこととしている。

表 9-2 五ヶ瀬川 国河川管理施設数

堰	水門	床止	排水機場	樋門樋管等	陸閘	計
0	6	1	6	32	4	49

### 9-3 河道内植生

五ヶ瀬川の河川区域内の植生については、植生の有する治水機能・環境機能を十分に考慮して、定期的に調査・点検を行い、適切に管理している。五ヶ瀬川及び大瀬川の中流部では、近年、竹やヤナギを主とする樹木繁茂の進行がみられ、洪水時の流下阻害が懸念されることから、モニタリングを実施し注視している。



図9-2 河道内樹木の状況（五ヶ瀬川7k000付近）



図9-3 樹木繁茂状況のモニタリング  
(大瀬川3k000付近 平成17年激特事業河道掘削箇所)

## 9-4 水防体制

### 1) 河川情報の概要

五ヶ瀬川では、流域内に雨量観測所（47ヶ所）、水位観測所（8ヶ所）を設置し、テレメータなどにより迅速に情報収集するとともに、空間監視の河川カメラも26箇所設置し、これらのデータを用いて水位予測などを行い、流域住民等の水防活動及び避難情報に活用している。

また、きめ細かな情報提供を目的に、近年、危機管理型水位計13箇所、簡易カメラ4箇所を設置し、流域住民等への情報提供も行っている。

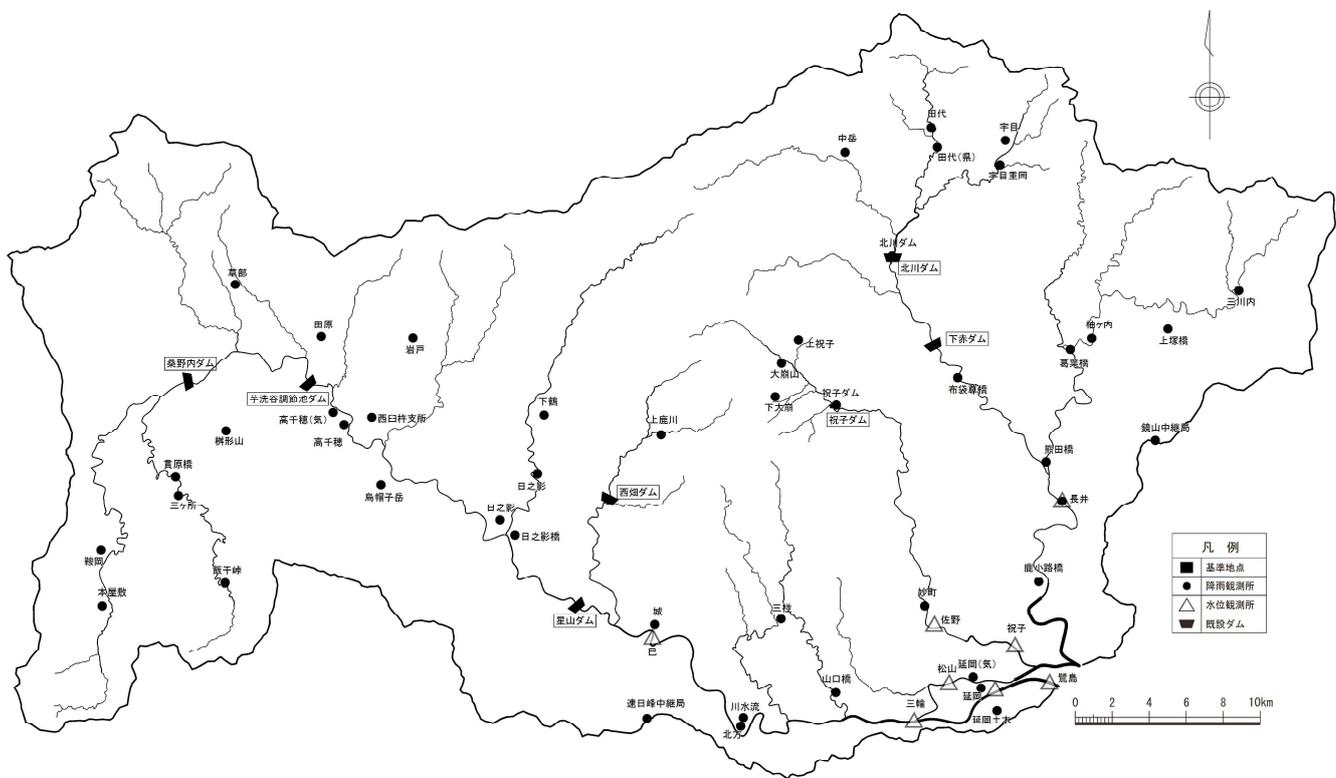


図9-4 雨量・水位観測所位置図

(五ヶ瀬川：河口地点)



(五ヶ瀬川：三輪地点)



図9-5 CCTVカメラ画像による情報提供状況

出典：事務所HP

## 2) 水防警報の概要

五ヶ瀬川では洪水による災害が起こる恐れがある場合に、水位観測所の水位をもとに水防管理団体に対し、河川の巡視や災害の発生防止のための水防活動が迅速、的確に行われるように水防警報を発令している。

## 3) 洪水予報

五ヶ瀬川では、水防法第10条第2項に基づく、洪水予報指定河川のため、宮崎气象台と共同で洪水予報の発表を行い、流域への適切な情報提供を実施している。水位の状況・予測や流域の雨量の状況・予測等を報道機関を通じて一般市民に分かりやすく迅速に情報提供している。

## 9-5 危機管理の取り組み

防災情報の活用、広域防災ネットワーク・情報ネットワークの構築等、ソフト対策の充実を図り、自助・共助・公助が連携した危機管理対策プランを推進するため、水防連絡会、洪水予報連絡会及び出前講座など様々な機会を通じて積極的に情報発信を行っている。

また、関係機関とともにハード・ソフト一体となった被害軽減にむけて、平成28年（2016年）には、水害に強い地域づくりの推進及び氾濫が発生することを前提として社会全体で常に洪水に備える「水防災意識社会」を再構築するための減災協議会の設置や、令和2年（2020年）には、気候変動による水害の激甚化・頻発化に備え、あらゆる関係者が協働して流域全体で水害を軽減させる治水対策、「流域治水」を計画的に推進するための、「五ヶ瀬川水系流域治水プロジェクト」を令和3年（2021年）3月に策定・公表した。

### 1) 事前情報の提供

日頃から水害に備えるための事前情報として、洪水浸水想定区域図をもとに作成する洪水ハザードマップがある。洪水ハザードマップは出水時の円滑かつ迅速な避難の確保を図るためのツールとして、各世帯に配布する等、一般へ周知することで、自分の住んでいる地域が氾濫等により、どのような浸水被害を受けるのか認識を深めることができ、また、緊急時の水防、避難活動等にも活用されている。さらに、洪水の危険性が認識され、ハザードマップの作成や避難のタイミング、地域における避難訓練等に活かせるよう、五ヶ瀬川からの浸水氾濫が時系列でイメージできる動画（L2規模）を作成し、ホームページ上で公開している。

#### ●洪水浸水想定区域図

水防法の規定により河川が氾濫した場合に想定される浸水の状況を、シミュレーションにより求めたものを記載した地図である。五ヶ瀬川においては、平成28年に五ヶ瀬川水系の洪水浸水想定区域図を作成している。

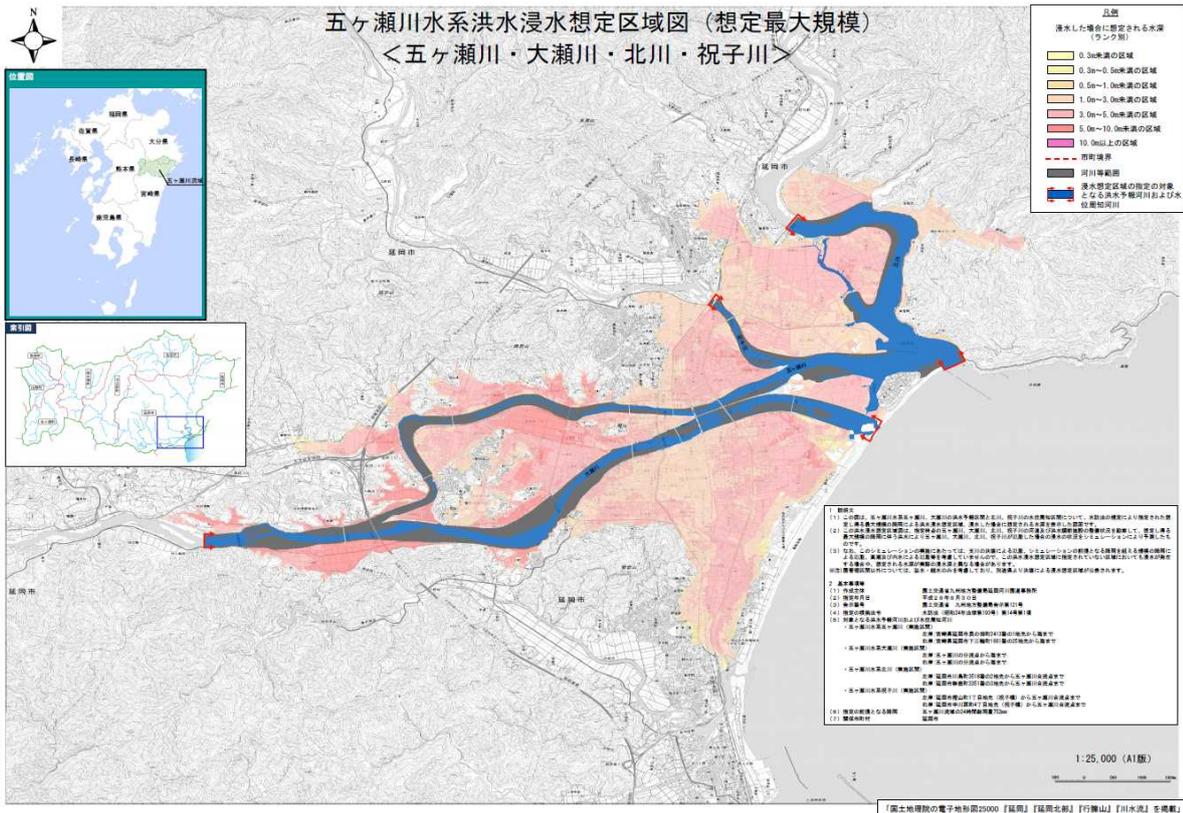


図 9 - 6 五ヶ瀬川水系洪水浸水想定区域図

●洪水ハザードマップ

洪水浸水想定区域図を基にして、浸水・氾濫情報等に避難場所、避難経路の位置、情報入手元などの各種防災情報を具体的に表示した地図で、市町村が作成している。

●水防情報図

洪水時に重点的に巡視点検が必要な箇所など河川管理者や水防管理者（市町村）、水防団・消防団等、水防関係者の水防活動に役立つ情報を載せた地図である。

五ヶ瀬川水系では国管理区間について作成し、更新している。

2) 災害発生時の自治体への支援

自治体が管理する河川等において、大規模な最大等が発生又は発生する恐れがある場合には、必要に応じて災害対策用機器等の資機材や職員を派遣し、迅速に情報を収集・提供し、また応急復旧等を緊急的に実施する場合には、必要に応じて応急復旧資材を提供するなどの支援を行うこととしている。また、県の範囲を超えた大規模な災害等にも適切に対応するため、広域的な視点から各県の防災計画の策定等にあたって、積極的に参画、協力することとしている。

## 第10章 地域との連携

五ヶ瀬川は、宮崎県、熊本県、大分県の3県7市町を貫流しており、歴史的に見ても地域と河川の繋がりが深い流域である。また、豊かな水と自然景観に恵まれた延岡市は、「水郷のべおか」とよばれる五ヶ瀬川と大瀬川を中心に街並みが形成された城下町で、河川と地元住民とは深い繋がりで結ばれている。

五ヶ瀬川では、河川協力団体2団体と協働で河川一斉清掃や水辺の安全教室などを実施し、河川の維持、河川環境の保全や防災教育の普及を図るとともに、その他、流域で活動する住民団体との連携・協働による水生生物調査や河川愛護イベントの開催や、全国3河川でのみ確認されている昭和初期に整備された歴史的治水施設「昼堤」の一部を貴重な地域資源として保存し、防災の普及や啓発イベントの活動にも役立てられるなど、河川愛護精神の醸成や環境教育の支援等、地域と連携、密着した河川管理を推進している。



河川一斉清掃活動



水生生物調査



水辺の安全教育